

## Hide and Seek 「かくれんぼ」 (35 語)

Hide and Seek	かくれんぼ
1 Can you see us?	ぼくたちのこと、見える？
2 Can you see me?	ぼくのこと、見える？
3 Yes, I can see you.	ほら、見つけたよ。
4 Can you see me?	私のこと、見える？
5 Yes, we can see you.	ほら、見つけたよ。
6 Can you see me?	ぼくのこと、見える？
7 Yes, we can see you.	ほら、見つけたよ。
8 We can all see Dad.	みんな、パパを見つけた。

「Hide and seek」の絵を描いてみよう！

もしキッパーたちとかくれんぼをしたら、どんな場所に隠れますか？  
その絵を描いてみましょう。



## Look at Me 「こっちを見て」 (36 語)

Look at Me	こっちを見て
1 Look at me, Mum.	こっちを見て、ママ。
2 Look at me, Mum.	ぼくを見て、ママ。
3 Look at me on my bike.	自転車に乗っているぼくを。
4 Look at me, Mum.	ぼくを見て、ママ。
5 Look at me on my bike.	自転車に乗っているぼくを。
6 Look at me, Mum.	こっちを見て、ママ。
7 Oh, no!	あ～やめて！
8 Look at me!	私を見てちょうだい！

とっておきの一枚

あなたなら、どんな時に Look at me!と叫んで、皆に注目してもらいたいと思いますか？

得意のサッカーでゴールを決めてガッツポーズしている姿？大好きなペットを抱っこしている姿？おしゃれをしている姿？それとも先生やお母さんに誉められた絵や作品やテストなどを皆にも見せてあげますか？

その姿を写真に撮って皆で持ち寄りましょう。そして、チップのように“Look at me ~”と言いながら皆の前で発表したらきっと楽しいですね。写真は私の教室の K 君が富士山の頂上で撮った写真です。“Look at me on top of Mt. Fuji!”



## Go Away, Floppy 「あっちへ行って、フロッピー」 (27 語)

Go Away, Floppy	あっちへ行って、フロッピー
1 Go away, Floppy.	あっちへ行って、フロッピー。
2 Go away, Floppy.	あっちへ行って、フロッピー。
3 We are skipping.	縄跳びしているんだから。
4 Go away, Floppy.	あっちへ行って、フロッピー。
5 We are painting.	ペンキ塗っているんだから。
6 Come back, Floppy.	戻っておいで、フロッピー。
7 Floppy, come back.	フロッピー、戻っておいでよ。
8 We are sorry.	ごめんね。

せりふを考えよう

各ページでフロッピーは何と言って訴えていると思いますか？

皆で考えてみましょう。以下は私の教室の子どもたちによるアイデアです。

### 【オリジナルのセリフの例】

Page	Dialogue
1	Play with this ball.
2	Can we play?
4	Let's play!
5	I'm sad.
7	I'm happy!



## Reds and Blues 「赤チーム、青チーム」 (33 語)

### 【訳】

Reds and Blues	赤チーム、青チーム
1 We are all in red.	ぼくら全員、赤のユニフォーム。
2 We are all in blue.	私たち全員、青のユニフォーム。
4 Come on the reds!	行け行け、赤チーム！
5 Come on the blues!	行け行け、青チーム！
6 Who is in red?	誰が赤チーム？
7 Who is in blue?	誰が青チーム？
8 We are all muddy.	み～んな泥んこ。

英語でユニフォームの色やチームの名前を尋ねるときは、次のように言います。

- Q: What color are you wearing?      何色のユニフォームを着ているの？  
A: I am wearing red.      ぼくは赤いユニフォーム。  
Q: What team are you?      君たちのチームは何？  
A: We are the reds.      ぼくたちは赤組。  
Q: What team are you in (米語ではon)?      どのチームに入っているの？  
A: I am in (米語ではon) the reds.      ぼくは赤組。

### キーワードビンゴ

all, are, come, in, on, the, we, の7つの単語プラス red, blue の合計9つの単語を使って各自用意したビンゴシートを使ってビンゴをしてみましょう。一度だけでなく、毎回のレッスンで読みに入る前に取り入れると良いでしょう。

## Big Feet 「大きな足」 (41 語)

Big Feet	大きな足
1 Come and look at this.	こっち来て、見てごらんよ。
2 Come and look at this.	こっち来て、見てごらんよ。
3 Is it a big monster?	これって、おっきな怪物？
4 Come and look at this.	こっち来て、見てごらんよ。
5 Is it a big dinosaur?	これって、巨大恐竜？
6 Come and look at this.	こっち来て、見てごらんよ。
7 Is it a big giant?	これって、どでかい巨人？
8 No. It is Dad.	ちがうよ。パパなのだ。

カードで遊ぼう！

表にさまざまな足跡、裏にその正体を描いたカードを用意し、足跡の面を上にして部屋のあちこちに置いておきます。見つけたら“Come and look at this.”と言い、“Is it a —?”と言いながら、あてっこします。最後にカードをひっくり返し、種あかしをしながら“It is —”と言いましょ。カードに描く絵は、鳥やブタなどの特徴的なものや、誰かの本物の足型でもよいでしょう。また、子ども自身に描かせて質問をさせてもよいでしょう。

What do you think it is?

表紙のページを見て、これが何の足跡か想像してみましょう。それぞれが出したアイデアをメモしておきます。または各自、絵を描いてみるのも楽しいですね。

Q: What do you think it is?

A: Is it a snow monster?

A: Is it a dinosaur?

A: Is it a troll?

その後、読み聞かせをしてからページごとに質問してみましょう。

Q: What did Biff think it was?

A: A big monster.

Q: What did Kipper think it was?

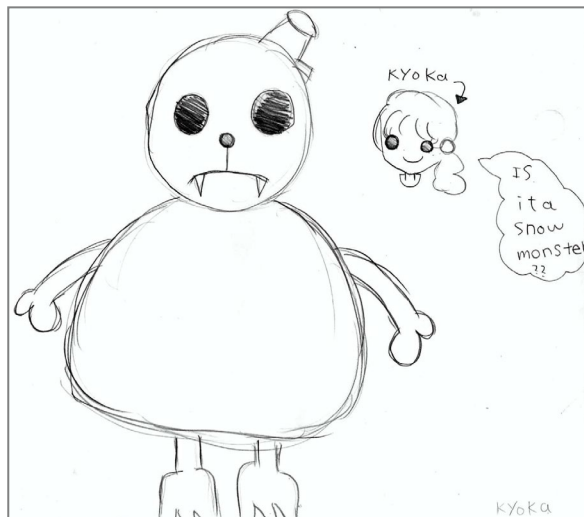
A: A big dinosaur.

Q: What did Mum think it was?

A: A big giant.

Q: Who made the giant footprints?

A: Dad.



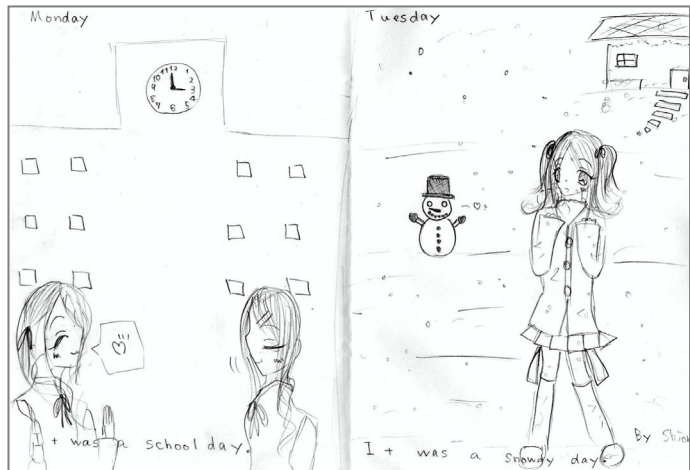
# Kipper's Diary 「キッパーの絵日記」 (35 語)

## 【訳】

Kipper's Diary		キッパーの絵日記
1	Monday It was a wet day.	月曜日 雨降りの日でした。
2	Tuesday It was a windy day.	火曜日 風のつよい日でした。
3	I went to the shops.	あちこちのお店に行きました。
4	Wednesday It was a sunny day.	水曜日 お天気のいい日でした。
5	I went to the pool.	プールに行きました。
6	Thursday It was a hot day.	木曜日 暑い日でした。
7	I went to the park.	公園に行きました。
8	Friday It was a fun day.	金曜日 楽しい日でした。

## みんなも絵日記を作ってみよう

私の教室では、キッパーのように月曜から金曜までの絵日記を描く宿題を出しました。英語を書くのが苦手でも、一行だけ、毎日のお天気についてだけでも文章が綴れたらよいですね。



## What Dogs Like 犬が好きなもの

ある日のことです。ビフは“My Dog”(『わたしの犬』)という本を手に入れました。きれいなイラストと一緒に犬たちの特徴や習性が詳しく書かれている本です。ビフはその本を片手に自分の家の愛犬、フロップイーの様子を観察してみることにしました。「犬たちは遊ぶことが好きです」——そうそう、フロップイーも家の中でボールを追いかけて回して楽しそうに遊んでいます。「犬たちは散歩が好きです」——そうそう、フロップイーもお散歩が大好き。キッパーにリードを引っ張ってもらって公園をお散歩しています。「犬たちは眠ることが好きです」——そうそう、フロップイーもキッチンに置いてあるバスケットの中で気持ちよく眠っています。「犬たちは走るのが好きです」——そうそう、フロップイーもお庭でキッパーやチップと一緒にかけっこをしているようです。でも、これはどうかな? 「犬たちはお風呂が好きです」——どうやら、フロップイー、お風呂だけは犬の苦手なようです。お風呂場でパパにごしごし体を洗ってもらっているフロップイーは、泡だらけになってちょっぴり悲しそうな顔をしています。

PG 1:	Dogs like to play.	犬は遊ぶのが好きだ。
PG 2-3:	They like to walk.	犬は歩くのが好きだ。
	Floppy likes to walk.	フロップイーは歩くのが好きだ。
PG 4-5:	They like to sleep.	犬は眠るのが好きだ。
	Floppy likes to sleep.	フロップイーは眠るのが好きだ。
PG 6-7:	They like to run.	犬は走るのが好きだ。
	Floppy likes to run.	フロップイーは走るのが好きだ。
PG 8:	Floppy hates this.	フロップイーはこれが大嫌い。



★Floppy のまねをして I am playing, -- walking, sleeping, running といいながら、そのかっこうをしてみましょう。次に先生が run, sleep とか次々と指示し、皆でそのかっこうをしてみましょう。

★別の動物(猫、馬、鳥、イルカ)のイラストや写真を用意し、“Birds like to sing.”など、それぞれについて言ってみましょう。新しい動詞も覚えられます。英語が出てこない場合は、まずジェスチャーをさせ、それを英語に直して言ってみましょう。

## Presents for Dad パパへのプレゼント

ある日パパが入院してしまいました。右足の骨を折ってしまったのです。ママと子どもたちはパパに早く元気になってもらおうと、お見舞いをもって病院にやってきました。広い病室の真っ白いベッドに横になったパパは、みんなの姿をみつけてちょっと嬉しそう。子どもたちはパパのためにもってきたプレゼントを、順々にパパに手渡していきました。チップからは色とりどりの花束を、ビフからは箱に入ったチョコレートの詰め合わせを、キッパーからはおいしそうなぶどうの房を。(おやおや！キッパーったら、せっかくのパパへのお見舞いのぶどうをいつの間にかつまみ食いしちゃったみたい。せっかくのぶどうの房がまばらになってしまっています)さてさて、お次はママの番。ママからのお見舞いは……愛情いっぱいキスが、パパへの何よりのプレゼントだったようですね。

- |         |   |                            |
|---------|---|----------------------------|
| PG 1:   | This is for Dad.                                    | これはパパのためにもってきたの。           |
| PG 2-3: | This is for you, Dad.<br>It is a bunch of flowers.  | これパパにあげるね。<br>花束だよ。        |
| PG 4-5: | This is for you, Dad.<br>It is a box of chocolates. | これパパにあげるね。<br>箱入りのチョコレートよ。 |
| PG 6-7: | This is for you, Dad.<br>It is a bunch of grapes.   | これパパにあげるね。<br>ひとふさのブドウだよ。  |
| PG 8:   | This is for the best Dad of all.                    | これはとびきり素敵なパパのため。           |

- ★ プレゼントごっこも楽しいですね。各自、袋か小さな箱を用意し絵で描いたプレゼントの中に入れ、“This is for you !”“Thank you!”の練習を試みましょう。絵を描くかわりにカードや、おもちゃの小物などを利用してもいいでしょう。また、実際にものを手渡す時に、“Here you are.”と試してみましょう。

## Top Dog 一等賞の犬

ドッグ・ショウの日がやってきました。野外の会場にはあちこちから集まった人、そしてペットの犬たちがいっぱいです。目玉は一等賞の犬を決めるコンテスト。芝生に一列に並べられた青い台の上には、このコンテストに出場する犬たちが同じ方向を向いておすわりしています。犬たちの様子を見守る飼い主やお客さんたちの中にはキッパーにビフにチップ、そしてママの姿もありました。そう、このコンテストにはキッパーたちの愛犬、フロッピーが出演しているのです！さあ、いよいよ入賞者の発表です。審査員たちがじっくりと審査し、みんなが選んだ優秀な犬たちにメダルが贈られていきます。

まずは第三位！——選ばれた犬は、白い小さな犬でした。

お次は第二位！——選ばれた犬は、大きな大きな犬でした。

そして、ついに一等賞の犬の発表です。フロッピーは選ばれるかな？

さあ、第一位！——一等賞に選ばれたのは……白いスマートな犬でした。フロッピーの顔が悲しげに曇ります。

でも、大丈夫！ドッグ・ショウからお家に帰ったフロッピーには、キッパーとビフとチップから手作りのメダルが贈られたんだもの。そのメダルにはこんな言葉が書いてありました。“Best of all(最高！)”——そう、キッパーたちにとってはいつだって他のどんな犬よりもフロッピーが一番大切なんです。

- PG 1: Look at all the dogs. このたくさんたくさんの犬をみて。
- PG 2-3: We like this dog. 私たちはこの犬が好き。  
This is a little dog. これは小さな犬。
- PG 4-5: We like this dog. 私たちはこの犬が好き。  
This is a big dog. これは大きな犬。
- PG 6-7: We all like this dog. 私たちはみんなこの犬が好き。  
This is the top dog. これが一等いちおうの犬。
- PG 8: We like Floppy best of all. 私たちはフロッピーフロッピーが一番好き。

★“dog” “cat” “monster”などの題をきめて、みんなでそのテーマにそつたイラストを描いて、コンテストを開きましょう。イラストが完成したら、“I like this ---” “This is ---”のように、意見を言い合い、入賞者を決めて、メダルをあげましょう。生徒たち的人数が多い場合は、いくつかのグループをつくり、それぞれのグループごとのコンテストの結果をみんなに発表させてもよいでしょう。

## Look After Me 私の面倒を見て

ビフとチップが遊園地で遊んでいると、そこへウィルマが小さな女の子を連れてやってきました。「ケイトっていうのよ」とビフたちに紹介してくれました。ケイトは遊びざかりで元気いっぱい！「これが好きなの」と言いながらネットを高いところまでよじ登ったりすべり台を勢いよくすべり降りたり、あちらこちらを元気よく飛び回るのでチップたちはハラハラしてしまいます。ケイトを見守ることにチップたちがだんだんくたびれてきた頃、ケイトも遊びつかれたのかお昼寝を始めました。「わたしたちはこれがいいや」すやすやとベビーカーの上で寝息をたてるケイトをのぞきこみ、ほっとしながら、チップたちは言いました。

- PG 1: This is Kate.                      これはケイト。
- PG 2-3: She went up the net.              ケイトはあみをのぼった。  
      "I like this," she said.              「私はこれが好き」と言った。
- PG 4-5: She went on the slide.           ケイトは滑り台をすべった。  
      "I like this," she said.              「私はこれが好き」と言った。
- PG 6-7: She went up the ladder.        ケイトははしごをのぼった。  
      "I like this," she said.              「私はこれが好き」と言った。
- PG 8: "We like this," said Biff. 「私たちはこれが好き」ビフが言った。

★ ここでは“I like this.”の練習です。遊園地などの絵を見せながら、“Do you like this?”と聞きながら、自分の意思をはっきり言えるようにするといいいでしょう。できれば“Yes, I do.” や“No, I don’t.”もいえるようになるといいいでしょう。食べ物で、好き嫌いを話してもいいですね。

## Go on, Mum! 行け、ママ！

軍隊の訓練場の敷地でお母さんたちの障害物レースが開かれました。キッパーたちのママやウィルフたちのママも出場しているので、子どもたちはパパと一緒に応援にやってきました。会場の広い芝生には赤いスウェットの上を着て、運動靴の靴ひもをしっかりと結んでいるママ。そんなママにキッパー、ビフ、チップが声援をおくっています。さあ、レースのスタートです。笛の合図と同時に、出場者のお母さんたちがいっせいに飛び出しました。池の上の丸太を渡ったり高いネットをよじのぼって超えたりしながら一等賞を競います。「行け！ママ」「がんばれ！ママ」大勢の応援客に混ざって、子どもたちやパパが熱い応援の声をあげると、ママもはりきって返事をします。「行くわよ！」大はりきりでママはゴールを目指し、今度は泥水の水路にやってきました。ここでは、兩岸を結ぶ橋のように材木が何本も渡されていて、その下をくぐりながら進みます。ところがこの材木がとても低い高さに渡してあるので、ママたちはそこをくぐるたびに泥水のなかに一回沈まなければならないのです。うっかり飲み込んでしまった泥水を苦しそうに吐き出している人もいます。鼻から泥水が入らないように鼻を片手でつまみながら勇敢に突き進むママでしたが……陸に上がったママはもうこのレースがイヤになっちゃったみたい。「もう行かないわ！」運動靴を脱いで、中に入り込んだ泥水を出しながら、ママはプリプリした様子で言うのでした。

- PG 1: “Go on, Mum,” said Chip. 「ママ、行け」とチップが言った。
- PG 2-3: “Go on, Mum,” said Biff. 「ママ、行け」とビフが言った。  
 “I am going,” said Mum. 「行っているわよ」とママが言った。
- PG 4-5: “Go on, Mum,” said Kipper. 「ママ、行け」とキッパーが言った。  
 “I am going,” she said. 「頑張っているわよ」とママが言った。
- PG 6-7: “Go on, go on,” said Dad. 「行け、行け」とパパが言った。  
 “I am going,” said Mum. 「行っているわよ」とママが言っ  
 た。
- PG 8: “I am not going again.” 「もう行かないわ」

★ 指ずもう・腕ずもうごっこはどうでしょう。2組のチームに分かれ、同じチームの仲間に、‘Go on,(名前)’、‘Go on,(名前)’と応援ごっこをしましょう。また、普段TVでスポーツ観戦をする時にも好きなチームに“Go on”と声援を送ってみましょう。



## Go Away, Cat 向こうに行きなさい、ねこ

お天気の良い日でした。キッパ―とビフとチップがリビングルームから庭の方をみると、一匹の猫が芝生の上で気持ちよさそうにお昼寝をしているのが見えました。でも、その庭にはもうじきキッパ―たちの愛犬、フロッピーがやってくるのです。猫がフロッピーに吠えられたり追いかけられたりしたら大変！子どもたちはフロッピーがやってくる前に猫を庭から追い出すことにしました。まずはビフが庭に出て猫に言いました。「あっちへ行って、猫ちゃん」でも猫は面倒くさそうにまぶたを動かしたただけでした。次にキッパ―が出てきて言いました。「あっちへ行って、猫ちゃん。犬がくるよ」でも猫は動いてくれません。そこで今度はチップがでてきて言いました。「あっちへ行ってよ、猫ちゃん。大きな犬がきちゃうよ」でも猫はおかまいなしのそぶりです。そうこうするうちに、ドアのところにフロッピーが姿を現しました。ビフとキッパ―も心配そうに様子を見守っています。「あっちへ行ってったら、猫ちゃん。フロッピーがくるよ」子どもたちが言いました。その時です。猫に気づいたフロッピーが、猫をめがけて一直線に駆けだしました。さあ、大変！……ところが、あらあらどうしたことでしょう。猫は背中を丸めてすごいけんまくでフロッピーを威嚇したのではないですか。驚いたのはフロッピーです。さっきまでの勇ましい顔はどこへやら、一目散に逃げ出しましたとさ。

PG 1: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

PG 2-3: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

A dog is coming. 犬がこっちに来るよ。

PG 4-5: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

A big dog is coming. 大きな犬がこっちに来るよ。

PG 6-7: Go away, little cat. 向こうに行きなさい、子猫ちゃん。

Floppy is coming. フロッピーがこっちに来るよ。

PG 8: Oh no! あらまあ！

★猫とフロッピーの役とに分け、“Go away, Little cat.”を歌のようにくりかえし、いい方を覚えましょう。もちろん子ねこは、最後に強そうに毛を逆立てて一声鳴くと、フロッピーはキャンキャン逃げるのですよ。

# The Sandcastle 「砂のお城」

—せっせとお城を作りにはげむ子どもたち（58語）—

海辺での砂遊びにはつい熱が入ります。お城作りをすることもたちのかたわらで、ビーチマットを敷き、寝ころびながら本を読んだり、写真を取っている親...覚えのある方いませんか。

## 親子で遊ぶ

夏に海にでかけるのは家族旅行の定番です。*The Sandcastle* のようなりっぱなお城を作るのはひと苦勞ですが、トンネル堀りやお山はチャレンジしやすいです。

*The Sandcastle* では子どもたちもママもみんな帽子をかぶっています。強い日差しの中で砂遊びをするには帽子は必要ですが、子どもはかぶらないで出かけたがります。帽子をかぶってもらう時の一冊としても使えます。

p.11~p.12 でキッパはイギリスの国旗“The Union Jack”を立てています。赤い十字がイングランド(St George)、青に白のななめ十字がスコットランド(St Andrew)、赤のななめ十字がアイルランド(St Patrick)に由来し、3つの十字を合わせて3国連盟を示す、ユニオンジャックと呼ばれています。p.4 にはポーランドの国旗もあります。

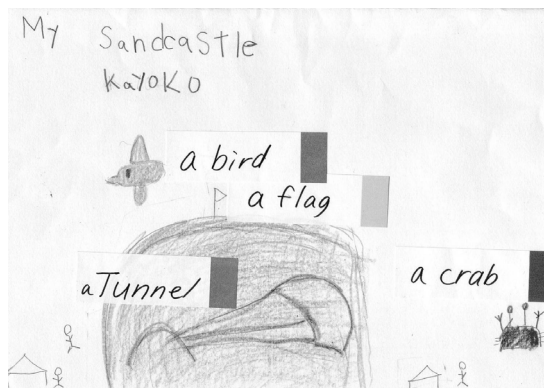
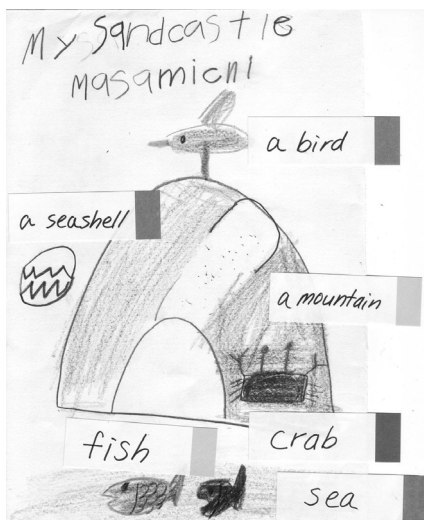
国旗をきっかけに、エアメールで届いた郵便物の切手を取っておいて、世界にはいろいろな国がある事を知ってもらいましょう。切手はしばらくしめらせておくと、取りやすいです。

- ① Soak this stamp in water.「この切手を水につけてね」→あまり長く浸すとやぶけます。
- ② Take the stamp off.「切手をはがして」→ゆっくりと。
- ③ Put it here.「ここにつけてね」→ノートなどに貼るようにしましょう。

## グループで遊ぶ

子どもたちに、自分たちが作ったお砂のお城を描いてもらいましょう。海で砂遊びをしたことがないお子さんには、作りたいお城を想像して描いてもらいましょう。あらかじめポストイットに指導者(親)が単語を書きおき、絵を描き終わったら、用意された単語をどんどん貼っていきます。単語の読みも自然に学べます。

### ●絵にポストイット



- ① みんなで本を開きながら CD を聞きます。
- ② 子どもたちに今までどんな砂のお城を作ったか聞き、黒板(あるいは模造紙)に描いていきます。
- ③ イメージができれば、今度はひとりずつ画用紙に自分の砂のお城を描きます。
- ④ 指導者(保護者)は、あらかじめポストイットに絵本に出てくる単語や、子どもたちの絵に出てきそうな単語をひとつずつ書いて子どもの人数分用意しておきます。

例: a box 「箱」 sand 「砂」 a bucket 「バケツ」 on top 「～の上に」 a

sandcastle 「砂の城」 sea 「海」 seashells 「貝殻」など。

- ⑤ 絵が描けた子どもたちは、指導者(親)の用意したポストイットから自分の絵にあるものを選び、絵の中にはっていきます。

### ●How's Mum?

だれかひとりの行動に注目して本を読んでみましょう。ここでは、ママの行動に注目して、CDを聞きながら読んでみます。

ママはこんなふうですね：

p.1 She's carrying bags. (バックを運んでいます) p.5 She's reading a book. (本を読んでいます) p.7 She's watching children. (子どもたちを見ています) p.9 She's taking a picture. (写真を取っています) p.12 She's watching the best castle. (1等賞のお城をみえています)

ページ	英文	和訳
1	Chip had a box.	チップは箱を運んでいます。
2	He put sand in it.	砂を入れています。
3	"Pat it flat," he said.	「平らにしてね」チップは言います。
4	Kipper had a box.	キッパーにも箱があります。
5	He put sand in it.	中に砂を入れています。
6	Biff had a bucket.	ビフはバケツを持っています。
7	She put sand in it.	中に砂を入れています。
8	Biff put the bucket on top.	ビフはバケツを上にあけます。
9	"Good," she said.	「よし」ビフは言いました。
10	It was a sandcastle.	砂のお城でした。
11	It was a good sandcastle.	りっぱなお城でした。
12	It was the best sandcastle.	1等賞のお城でした。

# Floppy's Bone 「フロッピーの骨」

—だれが何を釣るかな（59語）—

おいしそうな骨の取り合いです。続いておいかけてこいていく、動きのあるお話です。

## 親子で遊ぶ

### ●男の人はどこ？

追いかける人が次々と増えていって、いつしか骨を奪い返したい気持ちでいっぱいになっていきます。*Floppy's Bone* にはそれをはらはら見守る男の人が6名登場しています。男の人を描写し、お子さんに見つけてもらいます。見つけたら“*I found him.*”「見つけたよ」と言います。

- p.5 A man is wearing glasses.「男の人はめがねをかけています」
- p.5 A man has a stick.「男の人はステッキを持っています」
- p.6 A man is looking out of the window.「男の人は窓から外を見ています」
- p.7 A man is sweeping.「男の人は掃いています」
- p.9 A man is looking at Floppy.「男の人はフロッピーを見ています」
- p.12 A man is reading a newspaper.「男の人は新聞を読んでいます」

## グループで遊ぶ

キャラクターが骨をねらって追いかけていくのを、本の通りみんなで演じてみましょう。広い場所で動き回れなくても大丈夫。人が動くのではなく、スプーンで劇をするのです。これだとケガも少なく、場所も取りません。

## ●スプーンでドラマ

- ① CD を聞きます。
- ② 登場人物を把握します。“Name the characters.”「登場人物はだれかな」動きがあるのは以下7名です：  
Floppy, a dog, Mum, Dad, Biff, Chip, a big dog この他に男性や動物などもあります。
- ③ ②のキャストを決めます。ナレーターも1～2名決めます。子どもたちはなりたいたいのを考えて、“I'll be a dog.”「犬になるよ」のように、決まった人から言っていきましょう。
- ④ 使い捨てのスプーンにマジックで、②の登場人物の顔を描きます。顔だけ書けばそれらしく見えますが、紙粘土、毛糸、リボンなどで本格的に作ってもOKです。
- ⑤ ナレーターが本を読みます。配役にしたがって、スプーンで追いかけてっこをしていきます。
- ⑥ 何度かキャストを変えてやってみましょう。繰り返す事で、本を覚えてしまいます。表現を覚えると自然に使えるようになります。

### 子どもたちが走って行う場合：

自由に走ると、狭い場所では追いかけている相手がわからなくなり、めちゃくちゃになります。そこで、電車ごっこのように紐で輪を作り、それを手でかかえて中に入っていきます。ただし、小さい子どもたちの場合は、首に紐が引っかからないように注意が必要です。

ページ	英文	和訳
1	Floppy had a bone.	フロッピーの前に骨があります。
2	A dog took the bone.	犬が骨を取ってしまいました。
3	Floppy ran after the dog.	フロッピーが犬を追いかけます。
4	"Come back!" said Mum.	「戻ってらっしゃい！」ママが言います。
5	She ran after Floppy.	ママはフロッピーを追いかけます。
6	"Come back," said Dad.	「戻ってこい」パパが言いました。
7	He ran after Mum.	パパはママを追いかけます。
8	"Come back!" said Biff and Chip.	「戻って！」ビフとチップが言います。
9	They ran after Dad.	ビフとチップはパパを追いかけます。
10	The dog stopped.	犬が止まりました。
11	A big dog took the bone.	大きな犬が骨をうばってしまいました。
12	The big dog ate the bone.	大きな犬が骨を食べちゃいました。
	Oh no!	あーあ！



# The Box of Treasure 「宝の箱」

—ビフが見つけた宝の箱には…（59語）—

地図を頼りに宝物探しが始まります。何が出てくるのかな。

## 親子で遊ぶ

何が隠されているかわからない宝物を探すのは、ドキドキします。地図を読んで探せるのでしょうか。

### ●Mapping out

宝探しの地図を作ってみましょう。お家のリビングの地図でも楽しく遊べます。まずは宝物(お菓子など)をクッションの下、テレビの脇など見つけやすい場所に隠しましょう。お子さんにリビングの地図を書いてもらいます。“Let’s draw a picture.”「地図を書こうね」と誘って、一緒に書いて下さい。













パパ・ママが隠した場所を地図にマークします。マークしたらそれを何ピースかにカットしてジグゾーパズルを作ります。年齢に合わせて、カットする数は決めて下さい。

お子さんは地図のパズルをはめてから探します。

- ① Let’s draw a picture of this living room.「リビングの図を書こうね」
- ② I’ll mark the place.「場所にチェックするよ」
- ③ Let’s cut them into pieces.「いくつかに切っていくよ」
- ④ Now, are you ready? 「さあ、準備はいい？」 Please do the jigsaw puzzle.  
「ジグゾーパズルをしてね」
- ⑥ Find the treasure.「宝物を探して」

●**地図記号**(国土地理院のホームページより:2万5千分の1地形図に使われている地図の記号の一部)

高学年のお子さんの場合は、地図記号を使い本物もどきの地図を作ってみましょう。

	渡船 (フェリー) a ferry boat		灯台 a lighthouse		擁壁(大) wall
	漁港 a fishing port		重要港 a port		地方港 a port
	小中学校 a school		図書館 a library		郵便局 a post office
	病院 a hospital		交番 a police station		田 a rice field

## グループで遊ぶ

### ●なりきリアナウンサー

この本の中には、いろいろな種類の文章が出てきます。CD の音を何度も聞いて、声のトーンや調子を変えるマネをして、ネイティブライクの発音を目指しましょう。

- ① CD を聞きます。
- ② 何度も繰り返して聞いたら、今度は CD を聞くのとほぼ同時に聞こえた所だけを自分で発音してみます。聞き取れない所は、気にしないで下さい。できる所だけで構いません。
- ③ CD の声は、上がり調子、下がり調子、強い、弱いなどいろいろな読み方です。読み方にはいろいろあることを子どもたちと確認します

例:

p.1 Dad had a map. 抑揚のない言い方ですね。

p.8 “Dig here,” said Biff. 少し強い調子です。

p.11 “Is it a box of treasure?” 語尾を上げながら読んでいます。

p.12 No. It was a box of sweets! うれしそうにびっくりしながら読んでいます。

- ④ 句読点(パンクチュエーション)を見るとある程度その文章の読み方がわかります。そこで初めに  .  ?  ! と書いたカードを用意し、全員で練習していきます。

CD を聞きながら、それぞれのページの句読点を指導者(保護者)がカードで子どもたちに見せ、読み方を意識しながら練習しましょう。CD のイントネーションに似せて、できるだけ同じようにマネしながら読んでもらいます。

よく使われる句読点:

full stop ( 米 : period) , comma ,  
colon: , semicolon: , dash- , apostrophe '  question  
mark ? , exclamation mark ! , quotation marks " ", parenthesis  
(  )

- ⑤ 今度は個人での練習です。輪になります。感情をこめて、句読点の所まで一人ずつ交代しながら読んでみます。ひとりずつだと抵抗がある場合は、2 人ずつでもよいでしょう。子どもたちの負担にならないようにして下さい。
- ⑥ 子どもたちを半分に分けて、発表してもらいます。聞いている子どもたちは拍手をし、感想を言います。感想を言うってもらうために、あらかじめ“It’s great.”「すばらしかった」「I liked your voice.”「声が好き」などの言い方を練習しておきます。〈教室では、だれかがすばらしい発表をしたら、拍手をします。発表した子どもが、ますますよい発表をできるように支えあうことを教えるのです。〉

ページ	英文	和訳
1	Dad had a map.	パパが地図を持っています。
2	He hid the map in the sand.	パパは地図を砂の中に隠しました。
3		
4	Biff found the map.	ビフが地図を見つけました。
5	"It is a treasure map," she said.	「宝の地図だわ」ビフが言いました。
6	The map said, "Dig here."	地図には「ここを掘れ」と書いてあります。
7		
8	"Dig here," said Biff.	「ここを掘るのよ」ビフが言います。
9	Chip dug in the sand.	チップが砂を掘ります。
10	Chip found a box.	チップが箱を見つけました。
11	"Is it a box of treasure?" he said.	「宝の箱かな？」チップは言いました。
12	No. It was a box of sweets!	「ちがった。キャンディーの箱だ！」

# Hook a Duck 「あひる釣り」

—だれが何を釣るかな（58語）—

お祭りや屋台が並ぶところで、何かを釣るのは楽しさいっぱいです。何が釣れるかなとわくわくしながら、狙いを定めていきます。水に浮かんでいるもので釣るといえば、日本ではヨーヨー・金魚・スーパーボールなどがおなじみですね。*Hook a Duck* のアヒル釣りでは、アヒルに番号がついていますね。

## 親子で遊ぶ

ゲームに挑戦するときは、必ずお金を払います。うつし絵で、通貨への意識を育てましょう。人ごみにお出かけした時には、気をつけないとならないことがあります。「見知らぬ人にはついていけない」、「お金を見せたまま歩かない」など気づいた事を、お子さんにさりげなく伝えるチャンスです。

### ●コインうつし絵

アヒル釣りをする時にパパは何をしているでしょうか。p.5 のパパを見てください。お財布からお札を出しています。p.7,p.9 と進むにつれて、ついに p.9 ではからっぽのように見えますね。物を買うときにはお金が必要だという事を確認しましょう。

コインを用意します。コインをうすい白い紙の下に置きます。濃い鉛筆(2B 以上)を横に使います。力を軽くかけてえんぴつの側面を使いながら、紙の上から丁寧にこすっていきます。通貨の模様が浮き上がってきます。いろいろな種類のコインを集めて写してみましょう。

① Put the coin under the white paper.

「白い紙の下にコインをおきましょう」

② Color it with a pencil from the top.

「えんぴつで上から塗りましょう」

## グループで遊ぶ

次々と、みんながアヒル釣りで物を取っていきます。ここでは、覚えてほしい単語(名詞)の絵カードやおもちゃを使って言葉をたくさん覚えましょう。

### ●Have a go

- ① みんなで本を開きながら、CDを聞きます。
- ② 本に出てくる商品の a pen a duck a dog a cat a bear a monkey a ball などの絵カードまたはおもちゃや実物(どれかあるものでよい)を複数ずつ用意します。
- ③ 1メートルほどのテーブルクロスまたは布の下に、②を入れます。指導者(親)の“Have a go.”のかけ声で、丸くなってすわっている子どもたちが布の下に手だけ入れます。指導者(親)が“Hook a ~.”と指定したものを手探りで取ります。“I got a ~.”と言いながら、いっせいに布の下から物を出します。さあ、言われたものを取れるかな。一回ごとに物を元に戻してまぜます。“Mix well.”「よくまぜてね」
- ④ ②の単語を覚えたら、次は子どもたちに“Have a go. Hook a ~”と言ってもらいます。
- ⑤ オプションで、覚えてほしい単語(名詞)の絵カードやレプリカを用意すると、同じようにいくらでも遊べます。

ページ	英文	和訳
1	"Hook a duck,"said Mum.	「アヒル釣りしてみよう」ママが言います。
2	Chip had a go.	チップが釣ってみました。
3	He got a pen.	ペンを取りました。
4	"Have a go,"said Mom.	「ためしてみても」ママが言います。
5	Biff had a go.	ビフがやってみました。
6	Biff got a cat.	ビフはネコを取りました。
7	"Go on. Hook a duck," said Mum.	「さあ。アヒルを釣ってみて」ママが言います。
8	Kipper had a go.	キッパーがやってみました。
9	He got a dog.	犬を取りました。
10	It was a big dog.	大きな犬です。
11	"What a big dog!"said Kipper.	「なんてでっかい犬なんだ！」キッパーが言いました。
12	"Grrr!"said Floppy.	「ウーッ」フロッピーがほえました。

# Chip's Robot 「チップのロボット」

—チップが作るのは…（67語）—

ロボット作りはわくわくします。身体のパーツ、図形の言い方も一緒に覚えてしましましょう。

## 親子で遊ぶ

ロボット作りはおおがかりだというご家庭では、模造紙を貼りあわせてお子さんからだごと写してしましましょう。

### ●模写

模造紙をお子さんの身長の高さに張り合わせ、大きな紙を用意します。その上にお子さんにあお向けになってもらいます。“Lie down on the sheet of paper.” 「紙の上に寝て」。パパ・ママがお子さんの輪郭を紙になぞっていきます。マジックよりもクレヨンの方が身体についた時に落としやすいです。

できあがったら、身体のパーツ(leg, arm, head, face)を確認します。顔に表情をつけて、布切れや色画用紙などで洋服を着せ、リボンをつけても可愛くなります。

## グループで遊ぶ

*Chip's robot* と同じようにみんなでロボットを作ってみましょう。作りながら、知っておきたい図形の表現も自然に覚えられます。

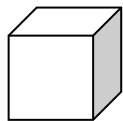
### ●Make our robots

- ① CD を聞きます。
- ② いろいろな形をした素材を集めます。To make a robot, you will need「ロボット作りに必要なもの」:

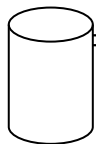
a glue stick(のり)、a pair of scissors(はさみ)など。



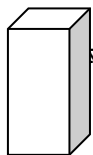
## 立体図形の英語



立方体  
a cube

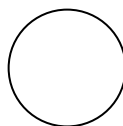


円柱  
a cylinder

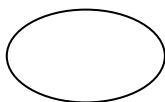


a cuboid  
a rectangular solid

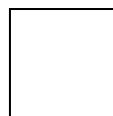
## 円・多角形の英語



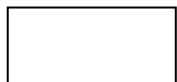
円  
a circle



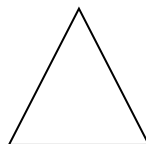
楕円  
an oval



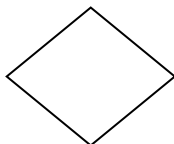
正方形  
a square



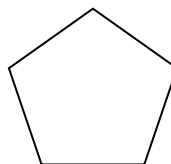
長方形  
a rectangle



三角形  
a triangle



ひし形  
a diamond



五角形  
a pentagon

- ③ 図形の表現に慣れるために、身体で図形を作ります。“Make a triangle with your legs.”「脚で三角を作ってみよう」脚を開いて2辺、床を1辺と考えると三角形になります。“Make a circle with your hands.”「手で円を描いてみよう」
- ④ 本を1ページずつ開きながら、同じように子どもたちとロボット作りをします。材料を取ってもらうときは、“Take a ○○ please.”「○○を取って下さい」、つけてほしい時は、“Please put it here.”「ここにつけて下さい」、糊が“it

sticks out.” 「はみ出している」というふうに英語でおしゃべりしながら、完成させていきましょう。

### ●歌 Head, Shoulders, Knees and Toes

歌って踊りながら、身体のパーツを確かめましょう。

#### ♪Head, Shoulders, Knees and Toes♪

Head, shoulders, knees and toes, knees and toes,  
Head, shoulders, knees and toes, knees and toes, and  
Eyes and ears and mouth and nose  
Head, shoulders, knees and toes,  
knees and toes

ページ	英文	和訳
1	Chip had a box.	チップが箱を持っています。
2	“This is my robot,” he said.	「これはボクのロボットなんだ」チップが言います。
3	“Can you see it?”	「わかる？」
4	“This is a leg,” said Chip.	「これが足だよ」チップが言います。
5	“Can you see the robot?”	「ロボットに見える？」
6	“This is an arm,” said Chip.	「これが腕でしょう。」チップが言います。
7	“Can you see my robot?”	「ロボットに見える？」
8	“Can you see it, yet?” said Chip.	「もう見えてきた？」チップが言います。
9	“No,” said Biff.	「うん」ビフが言います。
10	“This is the head,” said Chip.	「これが頭だよ」チップが言います。
11	“Now can you see my robot?”	「さあ、もうロボットが見えてきた？」
12	“We can see it now!” said Biff.	「やっと見えたよ！」ビフが言いました。

# One Wheel 「一輪車」

—みんなでこいでいます（55語）—

One Wheelにはタイヤつきの乗り物がいくつも出てきます。くるくるまわるおもちゃを回しながら乗るといのはかなりの技がいりますね。芸を見て、そのまま自分流にマネをして、家族仲良く楽しんでいます。

## 親子で遊ぶ

### ● I am on X wheel(s)

車輪のついた乗り物はいろいろあります。タイヤの数で比べてみましょう。

タイヤが1つ→

a wheelbarrow (一輪の手押し車)

unicycle = monocycle(米)(一輪車)

タイヤが2つ→

a bike(bicycle)「自転車」

a scooter「スクーター」

a pushchair(米: a stroller)「ベビーカー」

タイヤが3つ→

a tricycle「三輪車」

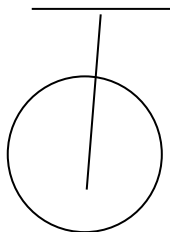
タイヤが4つ→

a skateboard「スケートボード」、a car「自動車」

お子さんは何輪車に乗っていますか？

お子さんの好きな乗り物を、お絵かきしてもらいましょう。架空の乗り物でも構いません。絵が描けたら I am on X wheels. → X の所に車輪の数を入れます。「X 輪車に乗っている」と文章も入れます。

I am on one wheel.



### グループで遊ぶ

#### ●ジェスチャー

- ① .p.2, p.5, p7, p.9 に出てくるチップ、ママ、キッパ、ビフのジェスチャーを決めます。挿絵と同じような感じで、4種類のジェスチャーしてみましょう。

会話例：“Do the gestures of p.2”「p.2 のジェスチャーをしてみよう。」

- ② “Count to three and do the gesture.”「3まで数えたらジェスチャーをしてみましよう」。“If your gesture matches up with your teacher, you lose.”「先生と同じジェスチャーをしたら負けです」。

ページ	英文	和訳
1	"One wheel," said Chip.	「一輪車だ。」チップがいます。
2	"Look," said Chip.	「見て。」チップがいます。
3	"One wheel."	「一輪車だ。」
4	"Look," said Mum.	「見てよ。」ママがいます。
5	"I am on two wheels."	「二輪車に乗っているでしょう。」
6	"Look at me," said Kipper.	「ボクを見て。」キッパーがいました。
7	"I am on three wheels."	「三輪車に乗っているよ。」
8	"Look at me," said Biff.	「私を見て。」ビフがいます。
9	"I am on four wheels."	「四輪車に乗ってるよ。」
10	"Look at Dad," said Mum.	「パパを見て。」ママがいました。
11	"He is on one wheel."	「一輪車乗りしているわ。」
12	"Oh no," said Dad.	「うわっ。」パパが言いました。
	"No wheels."	「車輪なしになっちゃった。」

## Glossary (本文:アルファベット順)

英単語	意味
arm	腕
ate	eat の
best	最もよい
big	大きな
bone	骨
box	箱
bucket	バケツ
can	can～ ～できる
Come back.	戻ってきて。
competition	競争・コンクール
Dad	パパ
dig	掘る
dog	犬
duck	あひる
dug	dig の過去形
enter	入る
flat	平らに
Floppy's	フロッピーの
found	find の過去形。見つける
four	4、4つの
get	got の過去形 手にいれる
Grrr	動物のうなり声
had	have の過去形。持っている・がある・取る
head	頭
here	ここに(で)、さあ
hid	hide の過去形。隠す

hook	釣る
it	それは
leg	脚
look at A	Aを見る
map	地図
Mum	ママ
my	自分の
now	さて、今
Oh	まあ
on	上、乗る、接している
on top	上に・先頭に立って
one	1、ひとつの
pat	ポンポンとたたく
put	put の過去形 置く・入れる・動かす
ran after	run after の過去形。追いかける
robot	ロボット
said	say の過去形。言う
sand	砂
sandcastle	砂のお城
see	見る。わかる。
she	彼女は
stopped	stop の過去形。止まる・やめる
sweets	キャンディー(英)
this	これ
three	3、3つの
treasure	宝
two	2、2つの
was	is・am の過去形
we	私たちは
What a～!	なんて～なのでしょう!

wheel	車輪
yet	もう(stillを多く使う。yetだと、そのうちなんとかかなるという感じになる。)まだ

## Stage 1+ More First Sentences B のイラストに出てくることば

イラストを見ながらお子さんとお話する時に、絵の中の単語をリストアップしました。

The Sandcastle			
波	wave	シャベル	shovel
帽子	cap	ポーランド	Poland
ひっくり返す	turn over	運動靴	trainers(英) sneakers(米)
貝殻	seashell	賞	prize
Floppy's Bone			
草	grass	洗濯をする	do the washing
ズボン	trousers(英) pants(米)	Tシャツ	T-shirt
ストッキング	pantyhose	ボクサーパンツ	boxer shorts(briefs)
下着	underwear	生ごみ	garbage
はしご	ladder	たこ	kite
紙くず	trash	ゴミ箱(乾いたごみ用)	dustbin(または bin) 米: trash can
Hook a Duck			
ジェットコースター	roller coaster	さる	monkey
くま	bear	さお	rod
お財布(お札を入れる)	wallet	ほうき	broom
歯をみせて笑う	grin		



Chip's Robot			
くし	comb	小さなプラスチック容器	a small plastic container/ a cup
ざる	strainer	フライパン	frying pan
なべ	pot	皿	plate
指差す	point to		
The Box of Treasure			
サインペン	felt-tip pen	スーパーの袋	plastic bag
灯台	lighthouse		
One Wheel			
一輪車	unicycle	手押し車	wheelbarrow
三輪車	tricycle		

## The Ice Cream 「アイスクリーム」

	The Ice Cream	アイスクリーム
PG 1	Can I get an ice cream? Yes, I can!	アイスクリーム、食べていい？ もちろん！
PG 2-3	Come on, run to the ice cream van.	さあ、アイスクリーム屋の車へ走りだ。
PG 4-5	I want the big one. Look at that!	僕、大きいのが食べたい。 あれを見て！
PG 6-7	Look Out, Kipper! Oh no!	気をつけて、キッパー！ あっ、しまった。
PG 8	Splat!	ぺちゃり！

- 1) 表紙を見て Kipper がどこにいるか、何曜日か、砂浜に何人の人がいるか、など子どもと話し合います。「アイスクリームのおじさん、怖い顔」と言う子どももいるでしょう。
- 2) 1 ページを読んで、これは誰が言った(または考えた)ことばか、聞きます。そう、Kipper のことばです。2 ページを読み、ice cream van を探させ、アイスクリーム売りの車を確認します。4 ページは big を強調して読みます。5 ページは、that を伸ばして読み「すごいなあ～」という感じを出します。6 ページ、たいへんなことが起こりそうな感じを込めて読みます。7 ページの Oh no! を読んだら、右端の男の人の足に注目し、1 ページ、または 2 ページにもどって、どの人が探しましょう。ここで、8 ページでどうなるか、子どもに予測させます。8 ページを見て大笑いです。
- 3) フォニックス基本ルールを知っていると読める単語がストーリーにいくつか含まれています。an, at, big, can, get, run, yes などです。これらの単語を言って、子どもに指させます。また、can と van, that と splat がライミングしていることに気づかせます。
- 4) 私の teacher-training course で、Ice Cream を子どもの読み聞かせ材料として工夫を凝らした受講生がいました。8 ページのつぶれたアイスクリームを、紙粘土で形作り、ケーキ材料をふりかけました。簡単にできますので、子どもの頭に載せて Oh no! Splat! と演じてみると楽しいでしょう。

## Can You See Me? 「僕が見える？」

Can You See Me?	「僕が見える？」
PG 1 Can you see my teddy bear?	僕のテディベア見える？
PG 2-3 Can you see my dog?	僕の犬見える？
PG 4-5 Can you see my picture of a big, red frog?	僕の描いた大きい赤いカエル見える？
PG 6-7 You can see my tiger, if you look in the tree.	僕のトラ見えるでしょ、木のなかを見れば。
Are you looking?	見てる？
PG 8 Can you see me?	僕が見える？

- 1) 表紙を見て、Kipper と Floppy が何をしているか話し合います。「かくれんぼ」は hide and seek です。
- 2) 1 ページを読み、Kipper の teddy bear を探します。探しながら、描かれているものを英語で言っても良いでしょう。2 ページを読み、Floppy を探します。teddy bear や Biff やお隣のおじさんも探します。4 ページを読み Kipper の絵を探します。他の子どもの絵に描かれているものも英語で言って聞かせるとよいでしょう。(このシリーズのイラストレーター Alex Brychta さんの絵がイーゼルにかかっています。)6-7 ページを読み tiger のぬいぐるみを探します。8 ページを読み、Kipper を探します。
- 3) フォニックス基本ルールで読める単語は、big, can, dog, if, red などがあります。ee を[i:]と読むルールで see と tree もあります。ライミングは dog と frog, tree と me です。
- 4) この絵本の文はすべて Kipper のことばです。子どもが絵本を持ち、自分で読み、探したものを指さす、という show and tell のような発表をさせると良いでしょう。

## Good Dog 「僕はいい犬」

Good Dog	僕はいい犬
PG 1 I'm a good dog. Look at me.	僕はいい犬です。 僕を見てください。
PG 2-3 I'm very good, as you can see. You say, "Sit," I sit.	ご覧の通り僕はとてもいい犬です。 「おすわり」と言われれば、坐ります。
PG 4-5 That's it. If you call, I get the ball.	ほらこのとおり。 声がかかれば、ボールを取りに行きます。
PG 6-7 You say, "Stay," I stay. That's that.	「待て」と言われれば、待ちます ほら、この通り。
PG 8 But not if I can see a cat.	ただし僕が猫を見なければの話ですけど。

- 1) 表紙を見てタイトルを読みます。「Floppy は good dog なんだよ、というお話かな？」と子どもに問いかけ、色々予測させます。
- 2) 1 ページを読みます。子どもに Floppy の演技をさせても良いでしょう。そのときは、自分を指さして Look at me.と言わせます。2 ページを読みます。2-3 ページには、メガネが道に落ちていて、お肉やさんには「犬お断り」の貼り紙があります。4-5 ページを読み、子どもに Floppy の役をさせると良いでしょう。6-7 ページを読み、8 ページで何が起きるか予測させます。8 ページは not を強調して読みます。
- 3) フォニックス基本ルールで読める単語は、but, can, dog, get, if, it などです。ライミングは、me と see、sit と it、call と ball、that と cat、say と stay です。
- 4) この絵本の文はすべて Floppy が読者に語りかけている英語です。子どもが Floppy になって、口パクをしながら、Floppy の動作をすると楽しいアクティビティになります。

## What a DIN! 「なんてやかましいの！」

What a DIN!	なんてやかましいの！
PG 1 Biff has a pan and a big, red pot.	ビフはフライパンと、大きな、赤いお鍋を持っています。
PG 2-3 Chip has a tin. What has Kipper got?	チップは、缶を持っています。 キッパーは、何を持っているのかな？
PG 4-5 Kipper has a can. Dad has a bin.	キッパーは、缶を持っています。 お父さんは、ゴミ箱を、持っています。
PG 6-7 Bang, crash, bang! What a din!	バーン、ガツチャーン、バーン！ なんてやかましいの！
PG 8 What a din!	なんてやかましいの！

注: tin は、主に食べ物の入った缶で、例えばビスケットの入った缶など。

can は、英語では主に飲み物用の入れ物。但し米語では、飲み物と食物両方に使う。

- 1) 表紙を見せ、タイトルを読み、どんな意味か当てさせます。「なんてやかましいの！」という意味だと教えます。
- 2) 1 ページを、絵を指さしながら、読みます。(a pan と言いながら左側のフライパンを、a big, red pot と言いながら右側の赤い鍋を指さす。) Biff は CD の音楽に合わせて打楽器を演奏しているつもりですね。2-3 ページを絵を指さしながら読みます。4-5 ページも同様に読みます。6 ページで誰が台所に入ってくるか予測させます。6 ページは擬音語なので、大きさに読みます。Mum が頭につけているのは何か考えさせます。7 ページを読み、誰が言った言葉か考えます。8 ページでどうなるか予測しましょう。Mum はヘッドフォン(headset)をして、はたき(duster)を指揮棒にして楽しそうですね。このページの What a din! は誰の言葉か考えます。Floppy ですね。もし 9 ページ目があるとしたら、どうなるか予測しましょう。
- 3) フォニックス基本ルールで読める単語は、and, big, bin, has, pan, pot, red, tin です。ライミングは pot と got, tin と din です。
- 4) 絵本と同じものが家の中にあるか探しましょう。絵本と同じように音を立て、What a din! と実感を込めて言いましょ。

## See Me Skip 「私が縄跳びするのを見て」

See Me Skip	私が縄跳びするのを見て
PG 1 See me skip.	私が縄跳びするのを見て。
PG 2-3 This is the way. I like to do this every day.	こうやるのよ。 毎日、これをするのが好きなの。
PG 4-5 “Come on, Dad. Can you skip too?” “Yes, I can. I skip like you.”	「パパ、やらない？パパも縄跳びできる？」 「できるとも。君みたいにね。」
PG 6-7 “Look at me. Look at me go!” “Look out, Dad!”	「ぼくを見てごらん、ぼくのするのを見てごらん！」 「パパ、気をつけて！」
PG 8 Oh no! Oh no!	「あーあ。」

- 1) 表紙を見せ、タイトルを読みます。絵について話し合います。Dad はお皿を洗い、Chip は宿題をしています。
- 2) 1 ページを読みます。誰が誰に言っているのか考えます。2-3 ページを読みます。4 ページで何が起きるか予測します。4-5 ページを読みます。Biff の声と Dad の声を使い分けましょう。6-7 ページを読みます。Floppy に注目します。Floppy の目の高さからはどんなことが見えているのでしょうか。8 ページを予測します。Oh no! に気持ちを込めて読みます。
- 3) フォニックス基本ルールで読める単語は、at, can, Dad, on, skip, yes です。ライミングは way と day、too と you です。

## The Mud Pie 「泥のパイ」

The Mud Pie	泥のパイ
PG 1 This is mud in my hand.	僕の手の中にあるのは、泥です。
PG 2-3 Put in water. Mix in sand.	水を入れて 砂を混ぜて
PG 4-5 Tap it out. Pat it flat.	ひっくり返して パンパンと平らにして
PG 6-7 This is a mud pie...	これが泥のパイ
PG 8 ...not a hat.	...帽子じゃないけど。

- 1) 表紙を見せ、Kipper が何をしているか話し合います。泥遊びを経験していない子どももいるかもしれませんね。泥がどんなものか知らないと、このストーリーは楽しくないので、雨がやんだあとの庭や道がどろどろであることを思い出させましょう。
- 2) 1 ページを読み、家族のひとりひとりがしていることを英語で言ってもよいでしょう。2-3 ページを読みます。4-5 ページを読みます。6 ページで何が起きるか予測します。6 ページを読みます。上がるイントネーションで読み、続きがあることを感じさせます。8 ページを読みます。
- 3) フォニックス基本ルールで読める単語は、hand, hat, in, it, mix, mud, not, pat, sand, tip などです。ライミングは hand と sand、flat と hat です。
- 4) この絵本の英語は全部 Kipper のことばです。意味のある言葉に stress を置いてチャンツとして言ってみましょう。(1-2-3-4 のリズムを\*\*\*\*で表しています。)

\* \* \* \*  
This is mud in my hand.

\* \* \* \*  
Put in water. Mix in sand.

\* \* \* \*  
Tip it out. Pat it flat.

\* \* \* \*  
This is a mud pie, not a hat.

Level 1+ Patterned Stories は、ORT の登場人物の名前と、基本的な動詞の読みと理解を促進するために製作されました。ご存じのようにORTは、イギリスの子どもの国語(Literacy)の教材です。イギリスの子どもでも、みんながすらすらと読めるようになる訳ではありません。なかなか文字と音が結びつかない、いわゆる slow learners もいます。その子どもたちのために作られた絵本は、EFL (English as a Foreign Language)として英語を学習している日本の子どもたちの学習にぴったりです。なぜなら、1冊に含まれる単語数が少なく繰り返しが多いため、英語に接する時間が非常に少ない日本の子どもたちでも、英語の絵本を読んだという満足感を味わうことができるからです。私はレッスンで多くの絵本を使います。その際、3つの段階を考えます。

- |   |
|---|
| 1) Pre-reading<br>2) Reading together<br>3) Follow-up |
|---|

- 1) では絵本に含まれる単語、トピック、構文をあらかじめ導入します。そうすることで、英語の絵本を読んでもらう子どもたちの負担を少なくします。もちろん、この段階をレッスンで扱わなくても、子どもがすーっと理解してしまう優れた絵本はたくさんあります。また、コースブックで Family を学習したら、そこで学習した単語が幾つか含まれている絵本を読んであげることによって、子どもは自然に Reading together に入っていくことができます。
- 2) を単に Reading としないで Reading together としているのは、美しい朗読を聞かせるのではなく、子どもたちが参加する楽しい読みを実践するということです。絵本を楽しんでいる子どもは、Repeat after me.と言わなくても、先生(またはお母さん)と一緒に英語を声に出して読みたくなるものです。
- 3) の Follow-up では、絵本を何度も読んで吸収した英語を、別の場面(situation)や文脈(context)で使うアクティビティをします。こうすることで、子どもたちは英語を自分の言葉として使うようになります。

Level 1+ Patterned Stories は、1冊ごとの英語が非常に少なくコントロールされていますから、1)の段階を飛ばして、いつ読んであげてもかまいません。1冊ごとの具体的な活用法を参考に、子どもたちと英語を楽しんでください。

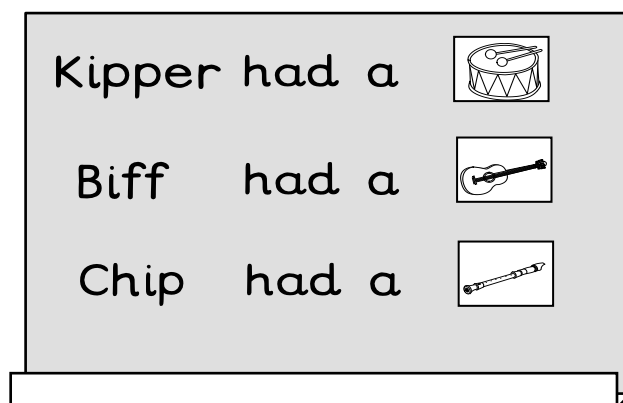


## 解 説

外山節子

### The Headache

- 1) 表紙を見せ、誰がどこにいるのか考えます。Dad が屋根裏部屋(attic)にいます。タイトルを読み、誰がどうして頭が痛くなるのか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。Biff, Chip, Kipper, Dad の確認をしましょう。2 ページに誰が何を持って出てくるか予測します。同様にして 7 ページまで読み、8 ページを想像します。
- 3) この絵本は had を見て読めるように作られています。色々な楽器の絵カードを作りましょう。ボードに Kipper had a と書き、絵カードを入れ替えて様々な文を言う練習をします。Kipper を Biff/Chip/Mum/Dad に変えて様々な組み合わせの文を読んで言う練習をします。



- 4) 子ども 1 人に絵カードを 1 枚配ります。先生は Mum になります。子どもは絵カードを持ち上げて "I have a (楽器)." と言い、その楽器の音真似をします。最後に先生が "I have a headache." と言います。

## At the Park

- 1) 表紙を見せ、誰が何をしているか話し合い、登場人物の名前を確認します。タイトルを読みます。公園に見える遊具を英語で言って聞かせても良いでしょう。よく見ると公園には NO DOGS の標識があります。この絵本で何が起こるか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、誰が何をしているか話し合います。公園に入れない Floppy がどんな気持ちか話し合います。英語を読みます。2 ページでは誰が何をするか想像し、ページをめくります。同様に 7 ページまで読みます。8 ページで Floppy がどうしているか予測してからページをめくります。
- 3) この絵本は went の練習をするように作られています。色々な遊具の絵カードを作りましょう。ボードに Kipper went on the と書き、絵カードを入れ替えて様々な文を言う練習をします。Kipper を Biff/Chip/Mum/Dad に変えて様々な組み合わせの文を読んで言う練習をします。
- 4) went を使うスピーキングゲームをします。最初の子どもが I went to a bookstore.と言います。2 番目の子どもは I went to a bookstore and a supermarket.と言います。次の子どもは I went to a bookstore, a supermarket, and a (XXXXXX).と言います。絵カードを用意して、絵を見ながらゲームをしても良いでしょう。

## Fancy Dress

- 1) 表紙を見せ、誰が何をしているか話し合います。タイトルを読みます。子どもたちは仮装パーティを知っているでしょうか？ハロウィーンを学習した子どもならば自分がした仮装のことを話させましょう。Kipper たちが、何に仮装するか想像しましょう。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。子どもたちはカカシを知っているでしょうか？最近のカラスを威す色々な仕掛けがありますが、カカシをあまり見かけません。英語を読んで聞かせ、2 ページで誰が何になるか予測してからページをめくります。同様に最後まで読み進みます。
- 3) この絵本は was を見て読めるように作られています。2 回目に読むときは、英文を指さしてどこを読んでいるか分かるように読み、was を子どもが自分で読むようにし向けます。また、2 ページと 3 ページでは、どの単語が同じでどの単語が違うか聞き、見比べさせます。ボードに Kipper was a と書き、様々な動物の絵カードを留めて、英文を言う練習をします。Kipper を Biff/Chip/Mum/Dad に変えて様々な組み合わせの文を読んで言う練習をします。

- 4) 自分が仮装したことを言うには I was a (XXXXXX).とすることを教えます。3) で使った動物の絵カードから好きなものを選んで I was a cat.のように言わせ、ジェスチャーもさせましょう。

### **Push!**

- 1) 表紙を見せ、Kipper 一家がいつ何をしているのか話し合います。週末、土曜日、日曜日という英語も聞かせることができます。タイトルを読み、この絵本で何が起こるか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、何が起きているか話し合います。Fancy Dress で練習した was を指さし、読めるかな、と聞きます。読めたら誉めます。英語を読みます。2 ページで何が起こるか予測してからページをめくります。同様に 7 ページまで読み、8 ページを予測してからページをめくります。
- 3) この絵本は push と pull の 2 つの動詞の意味をしっかりと感じ、見て読めるように作られています。Push を読むときは押す動作を、pull を読むときは引く動作をしましょう。
- 4) 部屋(または教室)の中にあるものを英語で言います。Push the chair/table/TV. など指示を言い、子どもはその動作をします。次に Pull the chair/table/TV. のように動詞を変えます。次に Push と Pull を交互に指示して、子どもに動作をさせましょう。慣れたら、子どもに指示を出す役目をさせると良いでしょう。

### **Good Old Mum**

- 1) 表紙を見せ、これは何の店か話し合います。店の名前やウィンドウの貼り紙なども読んで聞かせます。Fancy Dress を読んでいる子どもたちは、仮装グッズのお店かなあと気づくでしょう。タイトルを読みます。「もう、ママったら！」という意味であることを教えましょう。
- 2) 1 ページを見せ、Mum が何をしているか話し合います。英文を指さし、知っている単語があるか聞きます。1 つでも読めたら誉めます。英語を読みます。put on は 1 つの動詞として読みます。on に stress を置きます。2 ページでは Mum は何をするか想像してから、ページをめくります。同様にして 7 ページまで読み進み、8 ページで Mum が何に変身するか予測してからページをめくります。Kipper は Santa's helper に、Floppy は reindeer になっていますね。
- 3) この絵本は、put on と big を見て読めるように作られています。2 回目以降の読みでは、子どもにママの役をさせ、英語の通りの動作をさせ、big が聞こえたら big を表す動作をさせましょう。
- 4) 子どもの洋服を幾つか用意します。英語では「着る」「はく」「かぶる」など全部

put on であることを教えます。Put on your hat / scarf / gloves / jacket / pants / skirt / socks.などの指示を出し、子どもは言われたものを身につけます。慣れたら反対語の take off を教え、Put on your hat and take off your slippers.のように組み合わせの指示を出して楽しんでください。

### The Pet Shop

- 1) 表紙を見せ、みんながどこで何をしているか話し合います。タイトルを読みます。ペットショップにいる動物を英語で言ってみましょう。Kipper 一家はどんなペットを買うか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、この場面について話し合います。英文を指さしながら読んでみせます。2 ページでどんなペットが登場するか予測してからページをめくります。2-3 ページを見せ、誰が何をほしがっているか話しあってから、英語を読みます。この英語は、4-5 ページ、6-7 ページで繰り返されます。rat, spider, snake は絵を見て言うことができますから、子どもが全部の単語を読めなくてもストーリーを声に出して読めるようになります。
- 3) この絵本は wanted の練習をするように作られています。また、everyone, said, a, no などストーリーに頻繁に使われる単語も見慣れるようにします。
- 4) 何回も読むと英語を覚えてしまいますから、読むときに英文を指さしながら読んで、どこを読んでいるか意識させるようにします。Kipper たちがほしがった動物を変えて、新しいお話を作って声に出して読んでみましょう。

---

## Level 1+ Patterned Stories

### The Headache 頭痛

パパが屋根裏部屋で、普段使わないスーツケースを片付けていると、古いトランペットがでてきました。パパはそのトランペットを下の部屋へ持ってきました。「もう何年も吹いてないなあ。まだ上手に吹けるかな？」パパは楽譜を探してきて吹いてみました。あまり上手に演奏することはできなかったけれど、プープーッ (“Phaaarp, parp, parp-parp!”) と、大きな大きな音が出ました。音の正体を確かめに子ども達がやってきました。「パパがトランペットをもってたなんて知らなかったよ」とチップは言いました。

チップは、以前おばあちゃんからプレゼントにもらったドラムを持ってきて、パパの演奏の手助けをしようと、一緒に叩きはじめました。でも、それを聞いたパパはビックリ。そして、こう考えました。「もしチップがドラムの音で邪魔して僕の演奏をやめさせようと思っているなら、そうはいかないぞ！」パパはさっきよりもっと大きな音でトランペットを吹き始めたのです。ビフとキッパーも次々に参加しました。ビフは二階からリコーダー(笛)を、キッパーはビフの部屋から壊れたギターを持ってきて、パパ達の演奏に参加しました。ビフが加わった時も、キッパーが加わった時も、パパは、子ども達がパパのトランペットをやめさせるためにそれぞれの楽器で大きな音をだして邪魔していると思ったので、それに負けまいと、もっともっと大きな音でトランペットを吹き鳴らしました。

キッパーのギターがポロロン、ポロロン (“Twang, twang, plunk”)、ビフのリコーダーがピーピー (“Pheep, pheep”)、チップのドラムがボンボンボン (“Bang, boom, bang”)。パパは、立ち上がって、それまでで一番大きな音で、プープーッ (“Phaaarp, parp, parpety-parp”) とトランペットを吹き鳴らしました。

ママはその大きな大きな音を聞いて、何事が起きているのかと部屋へやってきました。でも、みんなは大きな音を出すのに夢中で、ママがドアのところに立っているのに気がつきませんでした。あまりの騒々しさのおかげで、ママが頭痛になってしまったのは言うまでもありません。

- PG 1 Dad had a trumpet. パパはトランペットを持っていた。  
PG 2-3 Chip had a drum. チップはたいこを持っていた。  
PG 4-5 Biff had a recorder. ビフはレコーダーを持っていた。  
PG 6-7 Kipper had a guitar. キッパーはギターを持っていた。  
PG 8 Mum had a headache. ママは頭が痛くなった。

## At the Park 公園にて

ママとパパが、子ども達をつれて公園の遊び場(a play area)へやって来ました。これまでに一度も来たことがない遊び場なので、子どもたちは大興奮です。遊び場がフェンスで囲ってあるのがビフには気になりましたが、近くまで来てみると、“No Dogs”と書かれた標識があったので、それが犬を入れないためのものだということがわかりました。「どうして犬を中に入れてはいけないのかしら？かわいそうだわ」とビフ。フロッピーは、結局、柵のところにはひもでつないで行くことになりました。「それは気の毒だね。僕たちみんなが楽しくしている時に自分だけつながれるのが、フロッピーは大嫌いなのに」とパパが言いました。

チップはすべり台で遊びました。すべり台はあまり高くなかったけれど、表面がなめらかで、すごいスピードですべることができました。フロッピーは思いました。「ずるいや。みんな楽しい時間を過ごしているのに、ぼくだけつながれたままなんて」

ビフは木馬で遊びました。大きなバネの上に作られていて、いろんな方向にぐらぐら揺れる木馬です。パパはビフをカウガールにみたく、「ヤー、ハッ！」と、まるでカウボーイのような声で言いました。「暴れ馬の背にまたがるはビフであります！」

フロッピーはみじめな気持ちで思いました。「やれやれ、みんな僕のこたなんて忘れちゃったみたいだ」

キッパーはブランコで遊びました。いろんな乗り方を試したり飛び降りたり、あれこれいたずらしています。パパは、キッパーに怪我に気をつけるよう注意した後で、ブランコを後ろから押してあげました。

ママはシーソーをしました。ママが片側に乗り、もう一方の側にはビフとチップが乗りました。ママはビフたちを勢いよく空へむかって持ち上げたり落下させたりしました。フロッピーは思いました。「みんな楽しそうだな。でも、ぼくのことはどうなってるの？」

かわいそうなフロッピー。フロッピーは待ちくたびれてうんざりしていました。そこで、退屈した犬がみんなそうするように、欠伸をし、伸びをすると、あっという間に眠り込んでしまいました。その様子を見て、キッパーが言いました。「あのぐったりした犬をみてよ。やっぱり『フロッピー(\*)』っていう名前にして正解だったね」

「起こしたらかわいそうだな」とパパ。チップが言いました。「僕、フロッピーは夢を見てるんだと思うな。あの顔を見て。鼻がびくびくしてるよ。見てみて、尻尾も動いてる。どんな夢をみているのかな？」(\*floppy…「べったりした、もっさり広がった」の意)

## At the Park

PG 1 Everyone went to the park.

PG 2-3 Chip went on the slide.

## 公園にて

みんなは公園に行った。

チップは滑り台をすべった。

PG 4-5	Biff went on the horse.	ビフは木馬に乗った。
PG 6-7	Kipper went on the swing. Mum went on the see-saw.	キッパーはブランコに乗った。 ママはシーソーに乗った。
PG 8	Floppy went to sleep.	フロッピーは眠った。

## Fancy Dress 仮装

キッパー一家は仮装パーティーへでかけるので興奮していました。どんな衣装を着るか、みんな一週間も悩んで決めたのです。ママは案山子(かかし)になりました。パパの古いシャツとほころびのあるズボン、つぎあてのあるジャケット、それに大きなブーツをはきました。案山子らしく見えるように、パパとキッパーはママの服のそでとズボンの裾に藁をつめてあげました。ビフは、オレンジ色の厚紙を使って、かかしの定番であるニンジンの鼻を作ってあげました。チップは古いトップハットをかぶせてあげました。でも、案山子のような一直線に伸びた腕にするのは大変です。そんなに長い時間腕を伸ばしているのは無理だとママが言ったので、パパが解決策を考えることにしました。みんなでママの仮装の手伝いをした後、ビフは海賊になりました。頭骸骨と骨の絵が描かれた海賊帽子、しましまのTシャツ、水玉のスカーフを身につけ、ゴム長靴を履きました。厚紙で刀も手作りしました。チップも海賊になりました。片目用の眼帯をして、頭に水玉のハンカチを巻きつけました。恐ろしい海賊に見せたかったので、片方の手には手の代わりにフックをつけました。キッパーは天使になりました。サンダルと小さなナイトシャツ、それにママが作ってくれた銀色の翼を身につけました。金紙で覆った光の輪もあります。「こんなふうには衣装を着込むと、まるで本当の天使みたいね。普段も天使みたいにしていてくれればよいのだけれど」とママが言ったのでビフとチップは笑いました。ママの腕をまっすぐに伸ばすために、パパはママのジャケットに棒を差し込みました。「あら、いやだ。鼻が痒いのには搔けない。案山子になるのは名案じゃなかったかもしれないわね」とママが言いました。

パパは仕事仲間に借りてきたニワトリの衣装でみんなを大笑いさせました。「こんな着ぐるみを着てると、なんだかバカみたいだな」とパパ。ママがニワトリの鳴き声みたいな声でクッククク(“Cluck, cluck-cluck, cluck!”)と笑い出したので、みんなも一層大きな声で笑いました。みんなは仮装パーティーを思いっきり楽しみました。パパはニワトリの衣装がみんなにウケたので元気がでてきたようです。みんな幸せな気持ちでいっぱいでしたが、ママだけは少し違ったみたいです。両腕が棒で固定されていたおかげで、パーティーのごちそうが食べられなかったのです。「心配しないで。みんなでかわりばんこに、ソーセージロールをママの口に運んであげるからね」とパパが言いました。

### Fancy Dress

PG 1 Mum was a scarecrow.

PG 2-3 Biff was a pirate.

Chip was a pirate.

PG 4-5 Kipper was an angel.

PG 6-7 Dad was a chicken.

PG 8 Everyone was happy.

### 仮装

ママは案山子(かかし)になった。

ビフは海賊になった。

チップは海賊になった。

キッパーは天使になった。

パパはニワトリになった。

みんな楽しかった。

### Push! 押して!

一家は、ピクニックをするための場所を探して、もう何マイルも田舎道を走りつづけていました。でも、どこにもよいところが見つかりません。子ども達から文句が出始めた頃、広大な農場が現れました。入り口の門が開いたままになっていたのも、ママはそのまま車を農場の中へと走らせました。ところが、どうしたことでしょう！車はどんどん速度を落とし、やがて動かなくなってしまいました。柔らかくぬかるんだ地面にはまりこんでいたのです。車をバックさせようとパパが提案したのでママはその通りにしようとしたのですが、車輪は空回りして車はますます深く沈み込んでしまいました。ママとパパは口げんかを始めてしまいました。結局、運転手をパパに交代し、ママが後ろから車を押すことにしましたが、やっぱりうまくいきません。パパたちの言い合いがまた少しひどくなったところで、「私たちも手伝おうか？」とビフが提案しました。そこで、ママが窓のへりをもって車を前へ引っぱり、ビフとチップが後ろから車を押すことにしました。でも、車はますます深く沈んでしまいました。

その時です。トラクターに乗った農家のおじさんがやってきました。「動けなくなっちゃったのかい？」「そうです」とパパ。農家のおじさんは言いました。「あんたがた、どうやら町から来たみたいだね。ここの地面は、車で横断するには地面のぬかるみがひどすぎるってわからなかったのかい」

「ママのせいよ」とビフ。「パパのせいさ」とチップ。「僕のせいじゃないよ」とキッパー。農家のおじさんはにっこり笑い、車をトラクターにつなぎました。そして、トラクターが車をひっぱり、みんなは後ろから押しました。おやおや！ビフもチップもキッパーもママも、本当は車を押したりせずにただ車に乗っていればよかったです。トラクターなら、車をぬかるみから引っ張りだすくらいお手のものだったのですから。でも、もう手遅れ。トラクターが勢いよく前進して車を引っ張ったとき・・・ほらね、どうなってしまったか分かったでしょう？



<b>Push!</b>	<b>押して！</b>
PG 1 The car was stuck.	車がぬかるみにはまってしまった。
PG 2-3 Mum pushed it.	ママが押した。
PG 4-5 Biff and Chip pushed it.	ビフとチップが押した。
Mum pulled it.	ママが引っ張った。
PG 6-7 The tractor pulled it.	トラクターが引っ張った。
PG 8 Oh no!	あーあ！

### Good Old Mum 愉快的ママ

ママが“The Party Shop”という名前のお店へ入って行きます。マジックやジョークにつかう道具や仮装用の衣装、パーティー用の風船などを売っているお店です。

ママにはみんなをびっくりさせる計画がありました。ママはパーティーショップで買ってきた秘密の品物を寝室へ持って行って、注意深く包みを開けました。それからママは、鏡の前に腰掛け、まず、大きな赤い鼻をつけました。「この鼻で本当によかったのかしら。でも、まあなんとかなるでしょ」と鏡を見ながら思いました。ママは、次に、大きなまくらをベルトでお腹のあたりに固定しました。「みんなをびっくりさせるには体を大きくみせなきゃ」キッパーもフロッピーも、ママが何をしようとしているのか知りません。「あなたにもあとちょっとしたら手伝ってもらわよ。それに、あなたへのびっくりプレゼントだって用意してあるの、キッパー」とママ。

ママは大きな長靴を履きました。フロッピーはママが自分を散歩に連れて行ってくれと勘違いしてそわそわし始めました。「長靴を履いたってということは、ぬかるんだところへ散歩に行くんだろうな」と思ったのです。でも、それは間違いでした。その次に、ママは大きな眉毛をつけました。「ママ、その格好、本当におかしいよ。でも、ママが何に変装しようとしているのか大体わかつちゃった」とキッパーが言いました。「あなたのためのびっくりプレゼントを見るまで、ちょっと待っててね」とママ。そして、ママは大きなひげをつけました。「ぼく、今度こそ本当にわかったよ。その大きな白いひげと眉毛ときたら、あれしかないもの」

「ホー！ホー！ホー！（Ho! Ho! Ho!）」とママは言いました。

そう。それが、ママのびっくり計画だったのです。ママはサンタクロース(Father Christmas)に変装したのです。ママは子ども達へのプレゼントが入った大きなふくろをたずさえました。キッパーも、ママがこっそり用意していた特別な衣装で、エルフ(小さな妖精)に変身しました。キッパーは大喜びです。ママはフロッピーにもトナカイの角をつけました。フロッピーはあまり嬉しくなかったようです。「これまでの人生で、こんなにばかばかしいことってなかったよ」とフロッピーは思いました。

### Good Old Mum

PG 1 Mum put on a big red nose.  
PG 2-3 Mum put on a big pillow.  
PG 4-5 Mum put on big boots.  
PG 6-7 Mum put on big eyebrows.  
She put on a big beard.  
PG 8 'Ho! Ho! Ho!' said Mum.

### 愉快的ママ

ママは赤い鼻をつけた。  
ママは大きなまくらをつけた。  
ママは大きなブーツをはいた。  
ママは大きなまゆげをつけた。  
大きなひげをつけた。  
「ホー！ホー！ホー！」と  
ママは言った。

### The Pet Shop ペットショップ

ママやパパは時々、フロッピーの食べ物を買いにペットショップへ行きます。そこではペットも売られています。そこで、ビフとチップが思いつきました。「ペットを飼わない？」「うちにはフロッピーがいるでしょ」とママ。チップは言いました。「でもフロッピーは家族なもの。ぼくらがほしいのは、ぼくらが面倒をみてあげることのできる、もっと小さいペットだよ」

そこで、その日の午後、一家はペットショップへとやって来ました。でも、みんな、どんなペットにすればよいのか、なかなか決めることができません。そこでペットショップのオーナーのミセス・ジョーンズが様々な種類のペットを見せてくれました。チップは白い、人懐こそうなネズミが欲しくなりました。「このピンクのながーいしっぽ、みて。ロデリックって呼ぼうよ」とチップ。でも、みんなネズミはいやでした。「えっ、それはだめ！」ビフはクモが欲しくなりました。普通のクモではなく、黒とオレンジ色をしたクモで、手足に毛が生えています。「散らかさないから飼うのが簡単よ。スージーってよびましょう」でも、みんなクモはいやでした。「えっ、それはだめ！」キッパーはヘビが欲しくなりました。「緑色のガーターヘビですよ」とミセス・ジョーンズ。「全然怖くないですよ。むしろ人懐こいんです」「ヘビはいいよ」とキッパー。「散歩に連れて行ってやる必要もないし、面倒が簡単。サイモンって呼ぼうよ」でも、みんなヘビはいやでした。「ええっ。ヘビなんていやだよ」みんなが言いました。

ついにパパが、みんなが気に入るペットを探しました。金魚です。「世話も簡単だし、外出するときに誰かにみてもらえるし、気立てもよさそうだ」そして、最後には、みんなが金魚を欲しくなりました。「これはいいわ」とママは言いました。金魚の名前はどうなったでしょう？ジョーズでもゴールドイーでもありません。みんなはその金魚をギルバートと呼びました。

### The Pet Shop

- PG 1 Everyone wanted a pet.  
PG 2-3 Chip wanted a rat.  
'Oh no!' said everyone.  
PG 4-5 Biff wanted a spider.  
'Oh no!' said everyone.  
PG 6-7 Kipper wanted a snake.  
'Oh no!' said everyone.  
PG 8 Everyone wanted a goldfish.

### ペットショップ

- みんなペットが欲しかった。  
チップはネズミが欲しかった。  
「いやだ！」とみんなは言った。  
ビフはクモが欲しかった。  
「いやだ！」とみんなは言った。  
キッパーはヘビが欲しかった。  
「いやだ！」とみんなは言った。  
みんな金魚が欲しかった。

Level 1 + More Patterned Stories は、ORT の登場人物の名前と、基本的な動詞の読みと理解を促進するために製作されました。ご存じのように ORT は、イギリスの子どもの国語 (Literacy) の教材です。イギリスの子どもでも、みんながすらすらと読めるようになる訳ではありません。なかなか文字と音が結びつかない、いわゆる slow learners もいます。その子ども達のために作られた絵本は、EFL (English as a Foreign Language) として英語を学習している日本の子ども達の学習にぴったりです。なぜなら、1 冊に含まれる単語数が少なく繰り返しが多いため、英語に接する時間が非常に少ない日本の子ども達でも、英語の絵本を読んだという満足感を味わうことができるからです。

私はレッスンで多くの絵本を使います。その際、3 つの段階を考えます。

- |   |
|---|
| 1) Pre-reading<br>2) Reading together<br>3) Follow-up |
|---|

- 1) では絵本に含まれる単語、トピック、構文をあらかじめ導入します。そうすることで、英語の絵本を読んでもらう子ども達の負担を少なくします。もちろん、この段階をレッスンで扱わなくても、子どもがすーっと理解してしまう優れた絵本はたくさんあります。また、コースブックで Family を学習したら、そこで学習した単語が幾つか含まれている絵本を読んであげることによって、子どもは自然に Reading together に入っていくことができます。
- 2) を単に Reading としないで Reading together としているのは、美しい朗読を聞かせるのではなく、子ども達が参加する楽しい読みの実践をするということです。絵本を楽しんでいる子どもは、Repeat after me. と言わなくても、先生(またはお母さん)と一緒に英語を声に出して読みたくなるものです。
- 3) の Follow-up では、絵本を何度も読んで吸収した英語を、別の場面(situation)や文脈(context)で使うアクティビティをします。こうすることで、子ども達は英語を自分の言葉として使うようになります。

Level 1 + More Patterned Stories は、1 冊ごとの英語が非常に少なくコントロールされていますから、1)の段階を飛ばして、いつ読んであげてもかまいません。1 冊ごとの具体的な活用法を参考に、子ども達と英語を楽しんでください。

また Level 1 + More Patterned Stories は、Level 1+ Patterned Stories と併用することもできます。同じパックの絵本を順番に読む必要はなく、Push!で家族ドライブでの出来事について話し合ったあとに、The Journey を読んで、同じトピックで英語を増やすこともできます。また、Fancy Dress を読んで Kipper was a pirate.という文の発展として、Kipper was hungry.で終わる Making Faces を読むこともできます。Level 1+ Patterned Stories と Level 1+ More Patterned Stories は全体で 12 冊のセットと考え、子どもの興味、既習事項に合わせて自由に選んで読んであげてください。

Level 1+ Patterned Stories	Level 1 + More Patterned Stories	共通事項
The Headache At the Park Good Old Mum The Pet Shop	What a Mess! Shopping Goal!	同じ文型で単語の入れ替え。 語順を意識させるアプローチが同じ。 got, had, made, put on, wanted, went。
Fancy Dress	Making Faces	同じ文型で単語の入れ替え。 was。
The Pet Shop	The Journey Who did that?	“XXXXXX,” said XXXXX.というパターンに慣れる。
Push!	The Journey	家族でドライブに出かけたときの出来事。

**What a Mess!**

- 1) 表紙を見せ、Kipper 一家がどこに行くのか考えます。壁の貼り紙の To the Show を読み、作品展に行くところであることを教えます。タイトルを読み、誰がどんなふう  
に散らかすか、想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵を指さして Mum を確認し、dress という単語を引き出します。英  
文を指さし、読めるかなと聞き、1 つでも読めたら誉めます。次は誰が何を作るの  
か予測してからページをめくります。同様に 7 ページまで読み進み、最後は誰が  
何を作るのか予測してから 8 ページを見ます。mess を「あきれた！」感じを出して  
読みます。
- 3) この絵本は made の練習をするように作られています。何回も読んだら、  
True/False ゲームをします。ボードに Mum made a scarf. と書き、声を出して読みま  
す。これは絵本とは違うので、子どもは胸の前で手を X の形に組み合わせます。a  
scarf を消して、a dress と書き、声を出して読みます。これは、絵本の内容と合っ  
ているので、子どもは両手で O を作ります。名前と作ったものをどんどん書き直し、  
その度に子どもに英文を声をだして読ませ、O か X で答えさせます。
- 4) 子どもが今までに作ったことのあるものについて話し合います。ボードに「I made」  
と書きます。子どもに紙を配り、子どもは作ったことのあるものの絵を描きます。ボ  
ードの英語を参考に「I made a snowman.」 のように英語を書きます。



### Making Faces

- 1) 表紙を見せ、Kipper たちが何をしているか話し合います。タイトルを読み、色々な表情を作っているんだね、と分かったら、誰がどんな顔をするか想像させます。
- 2) 1 ページを見せ、場面について話し合います。単語カードを引いて、その単語の表情をして当てるゲームをしているようですね。Dad の単語の意味は何か話し合ってから、英語を読みます。次は誰がどんな表情をするか予測してからページをめくります。2 ページ以降の Kipper の様子に注意を向けましょう。そうすると、最後のページの Kipper was hungry を予測することができます。
- 3) この絵本は was の練習をするように作られています。子ども達は登場人物の名前と was を読めると、感情を表す単語を読むことに集中することができます。絵本のように、単語カードを作り、1 枚ずつ見せ、読んで聞かせ、その表情を作ります。最初は fierce, sad, good, frightened, hungry の順に練習し、慣れたら順番を変えます。慣れたら、happy, thirsty, afraid, surprised, worried など、色々な単語を加えましょう。
- 4) 当てっこゲームをします。先生が I was sad. と言います。子どもは絵本の中で sad だった人物の名前を言います。Chip が正解です。慣れたら、子どもが出題者になります。リスニングからスピーキングに発展させるゲームです。

### The Journey

- 1) 表紙を見せ、みんなが何をしているか話し合います。タイトルを読みます。(journey という単語は、ただの旅行というより長旅、長道中という意味があります。絵本の内容を暗示しています) 車の旅行をしたことがあるか聞き、そういうときどんなものを持って行ったか、車の中でどのように過ごしたか聞きます。Kipper たちの旅行で何が起きるか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合い、Kipper はどんなことを言っているか想像します。英語を読みます。次は誰がなんと言うか予測してからページをめくります。同様に 7 ページまで読み、8 ページを予測しましょう。
- 3) この絵本は、どのページも "I'm XXXXXX," said (name). となっています。said を見て読めるようにします。ボードに  
"I'm bored," said .  
"I'm hungry," said .  
"I'm thirsty," said .  
"I'm cross," said .  
"I'm lost," said .  
と書きます。Kipper たちの絵カードを said の横に留めて、絵本の本文のバリエー

ションを作り読みましょう。絵カードを様々に入れ替えて、True/False ゲームをしても良いでしょう。The Journey には、said Floppy.で終わる文がありません。Floppy が話せたら、各ページでなんというか子ども達と考え、ボードに書き出して見せましょう。Making Faces で出てきた sad, good,などの単語を思い出させます。

- 4) Making Faces と文型を入れ替えてみましょう。例えば、Making Faces の 1 ページを見せて、“I’m fierce,” said Dad.と読み上げます。また、The Journey の 1 ページを見せて、Kipper was bored.と読み上げます。

### Goal!

- 1) 表紙を見せ、誰がサッカーをしているか想像します。タイトルを読みます。サッカー好きな子どもが多いので、どんなチームが好きか、どんな選手が好きか、ここで話し合ってもよいでしょう。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。子ども達は、真ん中でプレイしているのが Dad だとわかりますか？ 応援している Mum, Biff, Chip, Kipper を確認しましょう。社会人のゲームのようですね。2 ページで何が起こるか想像してからページをめくります。wet, cold, tired, miserable, cross の意味は、子どもに絵から想像させ、分かったら単語を言いながら表現する動作や表情を考えましょう。7 ページまで読んだら、8 ページについて話し合ってからページをめくります。表紙とタイトルを思い出させ、予測させましょう。
- 3) この絵本は got の練習をするように作られています。2 回目以降の読みでは、英文を指さして読んで、どの単語を読んでいるか分かるように進めます。また、2 ページと3ページの英文は wet と cold が入れ替えられています。2つの文を見比べて、子どもが差を自分で発見できるようにし向けましょう。
- 4) (name) got (XXXXXX). と英語を聞かせ、絵本の内容とあっているかどうか True/False ゲームをしましょう。子どもの実体験を話させ、それを I got (XXXXXX). という文で発表させましょう。

### Who Did That?

- 1) 表紙を見せ、Mum が何を見てどんな気持ちなのか話し合います。The Journey、Goal! を見せ、ぴったりの単語を探させましょう。そう、cross ですね。タイトルを読み、「誰がやったの？」という意味を教えます。
- 2) 1 ページを、英文を隠して見せ、絵について話し合います。このページにはどんな英語が書いてあるかな？と問いかけます。少しでも発言したら誉めます。次に、単語 1 つずつ見せていき、読めたら誉めます。Mum was cross.と読んで聞かせます。2 ページで何が起きるか想像してからページをめくります。7 ページまで読んだら、



8 ページで Dad がなんと言うか予測してからページをめくります。8 ページは、1 ページと同様に英語を隠して見せ、単語1つずつ見せて、子どもの読みをサポートします。

- 3) この絵本は、“It was (name),” said (name).という絵本のナレーションのパターンに慣れるように作られています。4-5 ページでは、名前を入れ替わった英文が並んでいますから、見比べて、子どもが自分で読むきっかけにします。
- 4) Who did that? ゲームをします。子どもは輪になって立ち、目を閉じて両手を背中に回します。先生は It was me.と書いた紙片を1人の手に握らせます。子どもは目をあけます。先生が Who did that?と言い、子どもの1人をにらみます。にらまれた子どもは It wasn't me. It was (Kota).のように誰かを指します。Kota は It wasn't me. It was (XXXXX).と言います。全員が、罪のなすり合いをしたら、先生はもう一度 Who did that?と聞きます。紙片を持った子どもが It was me.と告白してゲームは終わります。2 回目は、最初の犯人が Who did that?と聞く役になります。
- 5) 4)のゲームの発展として、1) Who took the candy?と聞いて、キャンディーの包み紙を手に握らせる、2) Who lost the key?と聞いて、何もついていないキーホルダーを手に握らせる、など様々な動詞を自然に聞かせることができます。

### Shopping

- 1) 表紙を見せ、Chip が何をしているか話し合います。biscuit は cookie と同じだよ、と教えると、Chip がクッキーを作ろうとしているということが理解できるでしょう。タイトルを読みます。デパートでのお買い物だけでなく、日常の店でのお使いも shopping と言うことを教えます。
- 2) 1 ページを見せ、この場面について話し合います。クッキーを作るのには、何が必要か話し合い、材料を英語で言ってみます。ボードに書き出しても良いでしょう。英語を読みます。2 ページで、Chip がどんなお店に行くか予測してからページをめくります。2-3 ページの絵について話し合ってから英語を読みます。crisp はポテトチップスのことだと教えます。同様に 7 ページまで読み進み、8 ページの英語を予測します。
- 3) この絵本は wanted, went, got を復習するために作られています。forgot は、絵を見て意味がわかるようになっています。子どもが忘れ物をしたとき、I forgot (XXXXXX).と言うようにします。
- 4) 名詞を入れ替えて絵本のバリエーションを作りましょう。

例:

表紙: Biff がサラダの作り方を読んでいる。

- 1 ページ: Biff wanted some tomatoes.
- 2 ページ: She went to the supermarket.
- 3 ページ: She got some chocolate.
- 4 ページ: She went to the shop.
- 5 ページ: She got a comic.
- 6 ページ: She went to the market.
- 7 ページ: She got a teddy bear.
- 8 ページ: She forgot the tomatoes.

---

## Level 1+ More Patterned Stories

### What a Mess! なんて散らかってるの!

「学校でクラフトショーをやるんだって」とママが言いました。クラフトショーとは、手作りの品をめいめいが持ち寄って出品し、そのできばえを競うショーのことです。優秀作品は賞をもらえます。ビフたち家族もこのショーに参加することにしました。じっくりと時間をかけて悩んだ末に、ママはドレスを、パパはジャムを作ることに決めました。パパは、子ども達の一番好きなイチゴジャムを作って一瓶をショウに出品し、残りを棚で保存することにしました。「それはいいわね。でも、私の作ったドレスにべたべたのジャムをつけちゃいやよ」とママ。パパが「気をつけるよ。前にも作ったことあるだろう」と言うと、「そうだったわね。それでキッチンごと新しくしなきゃならなくなったんじゃない」とママは冗談を言いました。パパは大笑いです。チップも、ずいぶん悩んでから、マフラー(scarf)を作ることに決めました。以前おばあちゃんが編物を教えてくれたことを思い出したのです。ママが編物の中でも一番簡単なマフラー(scarf)にするようアドバイスし、後で手伝ってくれることになりました。ビフは模型作りが得意なので、自分の力でトラック(lorry)を作ると言いました。ビフとチップがそれぞれ違うものを作ることになったので、けんかにならなくてすむだろうと、ママはほっとしました。

「ずるいよ」とキッパーが言いました。キッパーも、他のみんなのように何かを作れたかったけれど、何を作ればよいのかわからなかったのです。そこで、みんなでキッパーが何を作ったらよいか一生懸命考え、結局、パパのアイデアでパースデーカードに決めました。キッパーは絵が上手だし、クレヨンもフェルトペンもたくさん持っているからです。そこで、キッパーは色とりどりのお花をデザインしたパースデーカードを作りました。

さあ、ショウの時間です。みんな、時間までにそれぞれの作品をこしらえることができました。パパはイチゴジャム、ママはドレス、ビフはトラック、チップはマフラー、キッパーはパースデーカード。でも、それ以外に、もうひとつみんながこしらえたもの——それは、散らかし放題の物の山! でも、一家はショウの会場でとても楽しんでいたので、誰もそんなことは気にしませんでした。誰か、賞はもらえたのかな?

### What a Mess!

- PG 1 Mum made a dress.  
PG 2-3 Dad made some jam.  
PG 4-5 Chip made a scarf.

### なんて散らかってるの!

- ママはワンピースを作った。  
パパはジャムを作った。  
チップはマフラーを作った。

	Biff made a lorry.	ビフはトラックを作った。
PG 6-7	Kipper made a birthday card.	キッパーは誕生日カードを作った。
PG 8	Everyone made a mess.	みんなで散らかした。

### **Making Faces** 顔を作る

“Making Faces”というゲームを知っていますか？ルールはこうです。「悲しい」とか「嬉しい」などと書かれたカードを一枚ひいて、そのとおりの表情を作るのです。周りの人たちは、その表情をみて、カードに書かれていたことをあてます。

ママの誕生日のことでした。ママの希望に沿って、パパが家族だけのささやかなパーティーを企画しました。そこで、みんながやったゲームのひとつが“Making Faces”です。一番手はキッパー。“surprised(びっくりした)”というカードをひきました。ビックリした顔をキッパーが作ると、すぐにパパが言い当てました。パパがひいたカードは“fierce(どうもうな)”です。「簡単だい」とキッパーは思いましたが、自分の番はすでに終わってしまっていたので、これだと思った答えは言わずにおきました。チップがひいたのは“sad(悲しい)”でした。チップが作った表情をみて、ビフは「病気(ill)！」と言いました。「違うよ。かすってもないよ」とチップ。ママは「不幸(unhappy)」と言いました。「おいしい」とチップ。「わかった。『悲しい』だ」とパパ。「そう、その通り」チップが言いました。キッパーはゲームに退屈し始めました。パーティーのごちそうをもっと食べたかったのです。

「うわー、むずかしいのが当たっちゃったわ」自分の番がくると、ビフはそう言いました。“good(いい子)”というカードが当たったからです。チップはビフの作った表情を見て、「『眠たい(sleepy)』でしょ。ビフは眠たい時、いつもそういう顔してるもん」と言いました。「全然違うわ」とビフ。パパが笑いました。「どうしてビフがむずかしいと思ったのか分かったぞ。いい子にみせようとしてたんだろう！」「それなら、チップがそのカードをひかなくて幸いだったわね」とママが冗談を言いました。「いい子に見せるの、ビフ以上に苦労したかもしれないわよ」

ママの番が来ました。カードは“frightened(ギョツとした)”でした。あまりにもママの演技が本格的だったので、双子たち(ビフとチップ)は笑い出し、パパはショックを受けてしまいました。パパは、「ママは『ギョツとした』じゃなくて、『震え上がっている(horrified)』を演じようとしてるのかと思ったよ」と言いました。あれれ？キッパーがいません。キッパーはおなかがぺこぺこだったので、キッチンへ戻って、またごちそうを食べていたのです。そんなキッパーを見て、みんなが笑いました。「どうしたことかしら」とママ。「“Making Faces”ゲームには、きっと“greedy!(欲張り)”っていうカードが入ってたのね」

## Making Faces

## 顔を作る

PG 1	Dad was fierce.	パパは怒っていた。
PG 2-3	Chip was sad.	チップは悲しかった。
PG 4-5	Biff was good.	ビフはいい子だった。
PG 6-7	Mum was frightened.	ママはぎょっとした。
PG 8	Kipper was hungry.	キッパーはお腹がすいていた。

## The Journey 旅行

一家は休暇を利用して、長い旅行にでかけました。車に乗り込んだ子ども達はあまりにも興奮して落ち着きがなかったので、パパに注意されました。「おとなしくしてなさい。これから先もまだまだ長いんだよ」そう、それは本当に長い旅行だったのです。おまけに、交通渋滞のせいで、さらに長くなろうとしていたのです。

「あーあ、なんてこったい！この交通渋滞のひどいこと。別の道にすればよかった」とパパが言いました。「どの道にしても同じだったと思うわ」とママ。後ろの席では子ども達がそわそわと落ち着きません。「ぼく、飽きちゃった」とキッパーがつまらなさそうに言いました。「いつになったら着くの？」「辛抱しなさい。退屈しのぎにみんなで“I spy”が何か、ゲームでもしようよ」とパパが答えました。

あまりにも長い間車の中で座りっぱなしだったので、車が“The Big Eater(大食漢)”というカフェに止まったときには、子ども達は大喜びでした。ビフとチップはカフェに駆けていきました。「私、お腹ペコペコ」とビフ。「ぼく、喉がカラカラ」とチップが言いました。「ぼくの飲み物も忘れないでいてくれるといいのだけど」とフロッピーは思っていました。「だって、ぼくはどうせカフェの中には連れて行ってもらえないもの」

カフェで一休みした後は、みんないくらか機嫌がよくなっていました。ママは地図を見て、交通渋滞を避けるために別の道に行くことにしました。でも、それが間違いだったのです。数分後、みんなの前に現れたのは、大きな矢印の標識で、それはママが決めた道は通れませんよ、という合図だったのです。子ども達はそわそわだし、言い争いを始めてしまいました。「頭にきたぞ！」とパパは言いました。「君たちがそうやって文句を言ったり言い争ったりするのを止めないと、もっと怒るよ。」

ママは更に運転を続けましたが、本当に正しい道を走っているのか、分からなくなってしまうました。道幅はずいぶん狭くなり、荒野になりました。家も木も他の車も見当たりません。ついにママは車をとめて地図を広げると、「迷っちゃった」と言いました。「やっぱりメインロードのままにしておけばよかったんだ」とパパがぶつぶつ言いました。「一体いつになったら着くの？」とキッパーが今までで一番不満そうに聞きました。

ついに海辺に到着することができました。「やったー！」とみんなが言いました。「永遠にたどり着かないかと思ったわ。なんて旅行になっちゃったのかしら！」幸運なことにお日様はまださんさんと輝き、潮はまだひいていませんでした。遊ぶ時間もまだまだあります。「靴を濡らさないようにね。脱いでからなら海の中を歩いてもいいよ」そして子ども達は——それに、パパもママも！——その通りにしました。そして、みんな、水かけっこをしたり波打ち際を走ったりしているうちに、海へたどり着くまでの悲惨な道のりのことなど忘れてしまいました。

### The Journey

### 旅行

PG 1	'I'm bored,' said Kipper.	「飽きた」とキッパーは言った。
PG 2-3	'I'm hungry,' said Biff. 'I'm thirsty,' said Chip.	「お腹がすいた」とビフは言った。 「喉がかわいた」とチップは言った。
PG 4-5	'I'm cross,' said Dad.	「頭にきたぞ」とパパは言った。
PG 6-7	'I'm lost,' said Mum.	「迷子になったわ」とママは言った。
PG 8	'Hooray!' said everyone.	「やったー！」とみんなは言った。

### Goal! ゴール!

パパがサッカークラブに入りました。毎週日曜日に公園のそばのグラウンドで試合があります。初めて試合に参加した日のことでした。パパはとても真剣でした。何日も練習をしてきて、ついに今、実際の試合でプレイできるのです。「みんなでパパの初めての試合を観に行くわよ。パパを応援してあげなきゃね」とママが言いました。「フロッピーも？」とキッパーが聞くと、「ええ、フロッピーもよ。フロッピーだって、やっぱり家族の一員だもの」とママは答えました。問題は、それが寒い日だったということです。子ども達はサッカーフィールドに立って試合を観るのはかんべんしてもらいたと思っていました。

試合が始まると、すぐに雨が降り出しました。ひどい雨だったので、みんなはびしょぬれになりました。凍るような風が吹いて、みんなは寒くなってしまいました。「頑張れ!」、「行け、パパ!」子ども達が応援しましたが、パパは試合に集中していたので、気づきませんでした。「ぼくらが家に帰っちゃったら、パパはわかるかな？」とチップが聞きました。ママは答えました。「わかると思うわ。私たちがここで応援しているのを、パパは喜んでいるのよ」

かなり長い間、試合が続きました。特にフロッピーとキッパーにとってはずいぶん長い時間のように感じられました。犬というのはじっとしたまま立っているのが好きではないし、サッカーの試合にだって、あまり興味を持たないものです。だから、フロッピーもすぐにうんざりしてしまい、ぺたんと座りこむと、あくびをし、今にも眠りこんでしま

いそうなそぶりになりました。キッパーも辛そうです。試合への興味が薄れ始めていて、どんどん寒さが増していきました。「家に帰りたいな」キッパーは思いました。両手をこすりあわせ、両腕をさすり、体を温めようとしたのですが、暖かくなりませんでした。

突然、審判が笛を鳴らしました。パパがイエローカードを出されてしまったのです。「あーあ、パパったらイエローカードくらっちゃったよ」とチップが言うと、キッパーがその意味をたずねました。「何かよくないことをしちゃったっていう意味よ」とビフ。「誰かに足をひっかけちゃったの。いけないことなの。それはフェアプレイじゃないでしょう。もしもう一度イエローカードを出されたら、それ以上プレイできなくなるのよ」

でも、ママは頭にきていました。「パパはばかだね。イエローカードを出されて当然よ」そして、握りこぶしを差し上げて振りながらパパに向かって叫びました。「何やってるのよ」パパはめんくらったようです。速く走りすぎて、うっかり別の選手を転ばせてしまいました。

でも、ママの怒りもキッパーの寒さも、そう長くは続かなかったようですよ。だって、パパがゴールを決めたんです。それは、この試合でただひとつのゴールになりました。そう、パパのチームが勝ったのです。みんな叫んだり手を叩いたりして、大喜び。「やったね」とチップとビフが叫びました。キッパーはびよんびよん飛び跳ねて、パパに手を振りました。「すごかったわ！」とママ。この騒ぎにビックリしたのはフロッピーです。すっかり目が覚めてしまいました。

みんなはウキウキした気持ちでお家へ帰りました。暖炉の前にいたらびしょぬれもすぐに乾き、パパのゴールのお祝いにみんなでホットチョコレートを飲みました。

#### Goal!

PG 1 It was a cold day.  
PG 2-3 Everyone got wet.  
Everyone got cold.  
PG 4-5 Floppy got tired.  
Kipper got miserable.  
PG 6-7 Mum got cross.  
PG 8 Dad got a goal.

#### ゴール!

寒い日だった。  
みんな濡れた。  
みんな寒くなった。  
フロッピーは疲れた。  
キッパーはみじめになった。  
ママは腹を立てた。  
パパがゴールを決めた。

### Who Did That? 誰がやったの？

ママはムツとしていました。紅茶をもってキッチンから出てきたとき、壁紙にシミがついているのを見つけたのです。「あら、いやだ！ 誰が黒いシミをつけたのかしら」壁紙は新品でした。それに、汚れがスポンジでこすれば落ちるものかどうか分かりません。「汚れたものを家の中に持ち込んではいけなと、あの子たちには散々言い聞かせてあるのに」ママは子ども達を呼び、見せたいものがあると言いました。子ども達とフロッピーが大急ぎでやってきました。ママはドアのところに立っていました。子ども達には、ママが話す時の調子で、どうやらママは何か腹をたてているらしいと分かりました。

ママは、何か怒っている時にいつもそうするように、一語一語を強くきっぱりと言い切る喋り方で話をしました。「誰がやったの？」とママは言いました。ビフは、チップが汚れたサッカーボールを家の中に持ち込んでいたのを思い出して「チップよ」と言いました。でも、チップにはシミをつけた覚えはありませんでした。「いや、あの、えーつと」と口ごもりましたが、何を言えばよいのか分かりませんでした。

そうこうするうちに、チップは、前にキッパーが泥だらけのスニーカーを履いていたのを思い出しました。「キッパーだよ」とチップ。でも、キッパーは「ぼくじゃない。ぼく、やってないよ」と言いました。キッパーは、朝、フロッピーが庭で遊んでいたこと、最後に見たときには足が泥だらけだったことを思い出しました。キッパーはフロッピーを指差して「フロッピーだい」と言いました。「ぼくじゃない」とフロッピーは思いました。「ぼくは無実だよ」

そこでビフとチップも足を泥んこにさせてフロッピーを見たことを思い出しました。自分達にはシミをつけた心当たりがなかったので、フロッピーのしわざに違いないと思ったのです。実際、フロッピーは時々家中を走り回ることがありました。「そうよ、フロッピーのしわざだわ」とビフ。「これだもの」とフロッピーは思いました。「だから、子どものいうことは時々信じられないっていうのさ」その時です。子ども達のやりとりを聞いていたパパがやってきて、「フロッピーじゃないよ」と言いました。

事情はこうです。パパがバスルームの洗面台のつまりをとりのぞこうと作業していた時に、汚れた水がたくさん床にこぼれてしまいました。パパはその水を、モップで拭き取りました。でも、その時、うっかり一階の壁をモップでこすってしまい、汚れをつけてしまったのです。犯人はパパだったのです。「そうだよ。ぼくだったんだ」ビフとチップとキッパーはフロッピーに、まちがって責めてしまったことを謝り、ママはフロッピーにビスケットをあげました。パパも申し訳なかったと言って、清潔な布きれで壁紙につけてしまった汚れを拭き取りました。



### Who Did That?

### 誰がやったの？

PG 1	Mum was cross.	ママは腹を立てた。
PG 2-3	'Who did that?' she said. 'It was Chip,' said Biif.	「誰がやったの？」と言った。 「チップよ」とビフは言った。
PG 4-5	'It was Kipper,' said Chip.  'It was Floppy,' said Kipper.	「キッパーだよ」とチップは言っ た。 「フロッピーだよ」とキッパーは言った。
PG 6-7	'It was Floppy,' said Biff. 'It wasn't Floppy,' said Dad.	「フロッピーよ」とビフは言った。 「フロッピーじゃないよ」とパパ が言った。
PG 8	'It was me.'	「ぼくだよ」

### Shopping 買い物

チップとパパは、こっそりビスケットを作って、ママを驚かせようと計画しました。チップはお菓子の本をみて、「ジンジャーブレッド」というビスケットを作ることに決めました。ところが、必要な材料が揃っているかどうかパパと確かめてみると、砂糖だけがないことがわかりました。

そこで、チップはパパを誘って買い物にでかけました。スーパーマーケットで、チップは買い物カートを押しながら様々な商品を見て回り、大好きなポテトチップス(crisps)を買いました。そして、パパが缶入りのスープを選ぶのも手伝ってあげました。

スーパーマーケットからの道ぞいには新聞や雑貨を販売しているお店(newspaper shop)がありました。パパが新聞代を払うためにこのお店に立ち寄り、お店の人と話をしている間に、チップは店内を見て回りました。チップは長い時間をかけてすべての漫画雑誌を見比べてから、『フリップフロップ』と言う名前の、お気に入りの雑誌を買いました。

帰り道、チップとパパは、土曜市のそばを通りかかりました。パパがママのために安いビデオテープを買いたいと言うので、ちょっとだけ寄り道することにしました。チップは中古のおもちゃのお店で長いこと品物を眺めてから、お小遣いの最後のお金をつかってボールを一つ買いました。前のはパンクしちゃって使えなくなっていたから、ビフが喜ぶだろうな、とチップは思いました。パパが腕時計を見て、「急いで家に帰らなくちゃ。出かけてから、もう何時間もたっちゃった」と言いました。

チップとパパがようやく家に戻ると、「長い間、おでかけしてたのね」とママが言いました。「ちょっと買わなきゃいけないものがあったんだよ。ひとつふたつ欲しいものがあってね、だからチップと一緒に出かけたんだ」とパパ。「あら、そうだったの。何かお

料理でも始めるところだったみたいね」とママ。「そのとおり。チップがママのためにビスケットを焼いて、びっくりさせようとしてたのさ。でも、材料が足りなかったんだ。砂糖は手に入ったんだろう、チップ？」パパに聞かれて、チップは頭を叩きました。だって、チップはポテトチップスと漫画雑誌とボールを買って、砂糖を買い忘れていたのです。「あらまあ。でも、気持ちだけはいただいとおくわ」とママは言いました。

### Shopping

PG 1 Chip wanted some sugar.  
 PG 2-3 He went to the supermarket.  
 He got some crisps.  
 PG 4-5 He went to the shop.  
 He got a comic.  
 PG 6-7 He went to the market.  
 He got a ball.  
 PG 8 He forgot the sugar.

### 買い物

チップは砂糖が必要だった。  
 彼(チップ)はスーパーマーケットに行った。  
 彼(チップ)はポテトチップスを買った。  
 彼(チップ)はお店に行った。  
 彼(チップ)はマンガを買った。  
 彼(チップ)は市に行った。  
 彼(チップ)はボールを買った。  
 彼(チップ)は砂糖を忘れた。